

平成26年度農林水産総合センター農業研究所の現況及び今後の方針

1. 運営方針及び重点分野

本県は中四国一の農業県であり、生産される農産物は長年の先進技術の開発によって品質の良さが高く評価されている。しかし、ブランドの確立は一部の品目に留まっており、生産性の向上や儲かる力強い経営体の育成、消費者・実需者ニーズに対応した農産物の供給力強化などが喫緊の課題となっている。このような中、平成26年4月に「晴れの国おかやま生き生きプラン」が策定され、戦略プログラムとして「攻めの農林水産業育成プログラム」が盛り込まれた。さらに、これを受けて改定された「21おかやま農林水産プラン」では、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指し、「マーケティング戦略の展開」、「ブランディングの推進」、「次代を担う担い手の育成」を3本柱として施策を展開しており、特に「ブランディングの推進」では信頼や魅力を高める新技術・新品種の開発を積極的に進めることとしている。

これらを踏まえ、農業研究所では、儲かる産業としての農業の実現を目指し、消費者ニーズに対応した高品質でブランド力の高い新品種の育成や、高品質安定生産のための新技術の開発を推進している。このため、以下の重点分野を目標に、消費者・実需者ニーズに対応したオリジナル新品種の育成及び一層の高付加価値化、省エネ・省力・低コスト化、環境負荷低減や地球温暖化、新たなニーズに対応した新技術の開発に取り組んでいる。

【重点分野】

- ① ブランド強化（新品種育成・高付加価値化）
- ② 生産性の向上（省エネ・省力・低コスト化）
- ③ 環境との調和、気象変動への対応（環境負荷低減対策・温暖化対応技術）
- ④ 新しいニーズへの対応

また、優良種苗の供給、病害虫の発生予察等、安定した農業生産のための各種試験研究関連事業や病害虫・生理障害の診断と対策等、生産者や関係機関への技術支援も引き続き実施する。

今後とも、効率的、効果的な新技術・新品種の開発に取り組み、得られた研究成果は農林水産総合センター普及連携部や農業普及指導センター等と連携して積極的に知的財産化するとともに、迅速な普及に努めていく。

重点分野別の主な研究課題(抜粋)

①ブランド強化	・「紫苑」の出荷期間拡大技術の確立 ・「くだもの王国おかやま」を彩るイチゴ新品種の育成 ・岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系の確立と栽培技術の改善
②生産性の向上	・大規模経営に対応した効率的な稲作システムの確立 ・「シャインマスカット」の省エネルギー型温度管理体系の確立 ・低コスト化を目指した促成ナスの炭酸ガス局所施用技術の開発
③環境との調和 気象変動への 対応	・堆肥と化成肥料を混合した新規肥料設計技術の開発 ・促成栽培ナスのミナミキイロアザミウマに対する新たな天敵を組み合わせた総合防除体系の確立 ・気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立
④新しいニーズ 対応	・個人消費のスタイルに即したブドウ生産技術の開発

2. 組織体制及び人員配置並びに予算配分

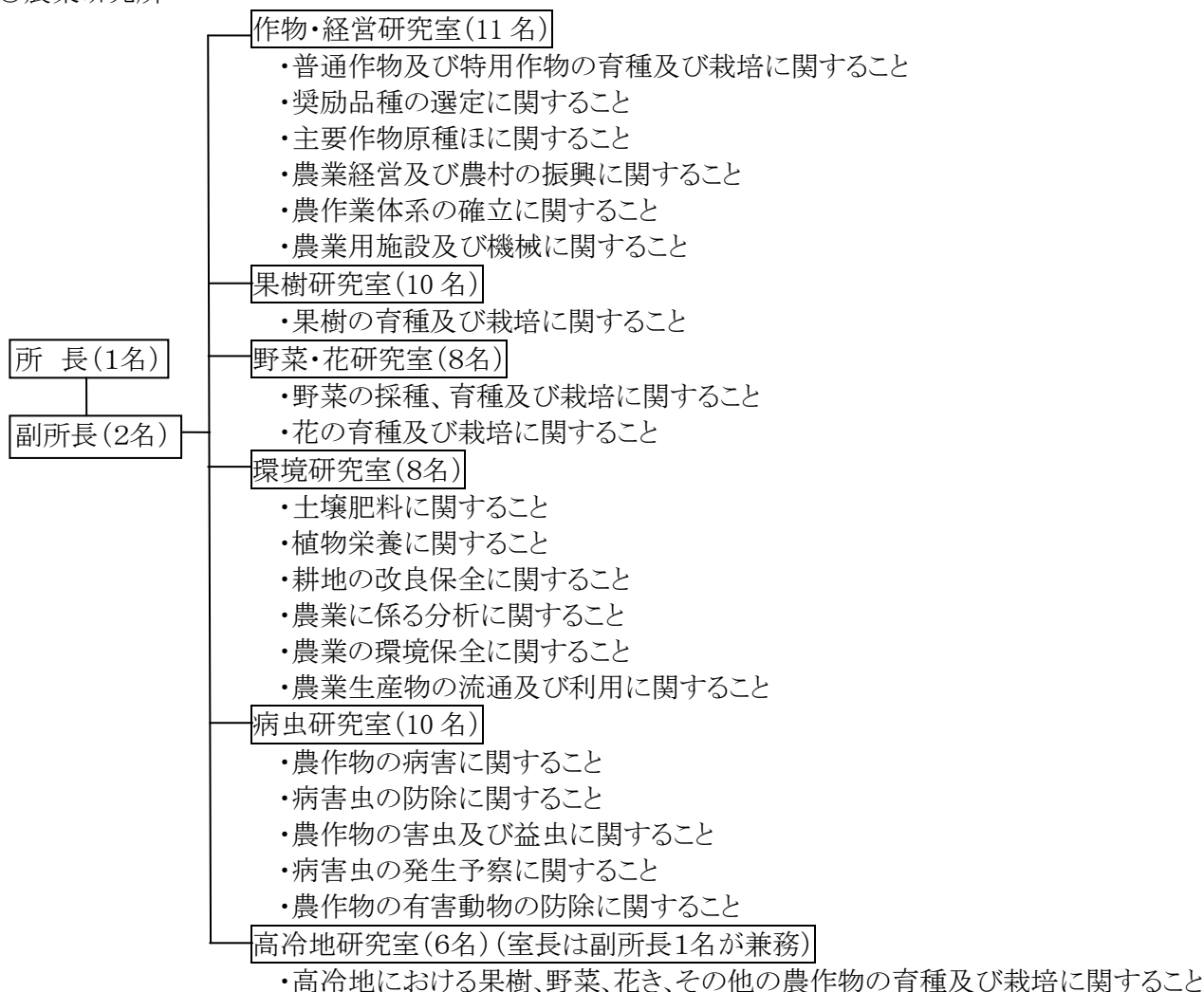
(1) 組織体制と事務分掌

本県の財政状況を踏まえて策定された「行財政構造改革大綱 2008」に基づき、平成 22 年 4 月に農林水産関係研究機関等を統合して岡山県農林水産総合センターが発足し、現在、農業研究所は赤磐市の 5 研究室と真庭市の 1 研究室の、計 6 研究室体制で試験研究を実施している。また、農林水産総合センターに病虫害防除所が併置されており、試験研究と一体的に業務に当たっている。

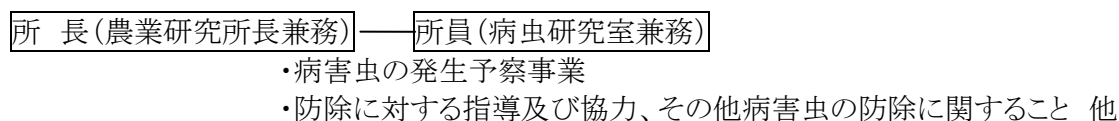
職員数は 3 次に渡る行財政改革によって減少しており、特に平成 24 年度末で農業技術職（現業職）が廃止となり、農業技術職員が担当していた業務は、農業技術職から行政職への転任職員 6 名に加え、非常勤職員 4 名（1 年契約）及び外部委託で対応することとなった。その結果、正規職員数は平成 23 年度の 70 名（研究職 55 名、技術職 15 名）に対して、平成 26 年度は 56 名（研究職 50 名、行政職 6 名）となっている。

農業研究所の組織図と事務分掌

○農業研究所



○病虫害防除所(農林水産総合センター併置)



(2) 予算配分

農業研究所の人件費を除く平成26年度当初の研究予算は、試験研究や各種事業を行う研究費が68,714千円、施設や圃場の維持管理に必要な運営費が43,261千円、施設や備品の整備に用いる施設・備品整備費が27,729千円で、総額139,704千円であり、平成23年度から概ね横這い状態を維持している。これは、岡山県の財政状況により一般財源（県費）が年々縮小傾向であるのに対し、外部資金である農業総合助成試験費や内部資金である農総センター連携事業促進費を積極的に獲得していることによる。その結果、研究予算に占める一般財源は46%と半分以下であり、国庫が21%、各種団体からの受託費が14%、農業研究所で収穫した農作物を販売した財産収入が19%となっている。人件費は458,026千円（H25）で、職員数の減少に伴い、減少傾向にある。

外部資金の導入状況は、病虫害対策事業費や科学研究費などの国・独法関係研究が10件18,725千円、民間受託研究等が6件8,017千円、特別電源科学技術振興補助金の備品整備費が22,804千円で、総額49,546千円（研究予算総額の35%）に上り、特に特別電源科学技術振興補助金は県費での購入が困難な高度精密備品の整備に活用している。

今後は限られた財源を有効に活用すべく、試験研究課題の選択と集中を一層進めて更なる重点化を図ると共に業務の効率化を図り、外部資金の獲得にも積極的に取り組んでいく。

平成26年度研究予算配分(除人件費)

単位:千円

分類	事項名等	平成26年度予算額				研究対象		備考
		(前年対比)	一般財源	特定財源	(内財産収入)	課題	事業	
研究費	病虫害対策事業費	8,670 (97%)	2,604	6,066	0	3	1	病虫害発生予察事業、病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立事業
	農業総合助成試験費	13,359 (152%)	0	13,359	0	7	0	提案公募型競争的資金、科学研究費など
	農業研究所研究費(事業費)	37,542 (102%)	19,019	18,523	11,206	32	5	各種研究費、原種圃事業、機器整備など
	農林水産総合センター連携事業促進費(普及連携部予算)	9,143 (118%)	9,143	0	0	11	0	産学連携推進事業費、ブランディング、地域バイオマス、知財創出活用事業
	(農産課予算)	—	—	—	—	6	1	令達
	計	68,714 (110%)	30,766	37,948	11,206	59	7	
運営費	農林水産総合センター運営費	29,772 (100%)	29,772	0	0	—	—	管理運営費
	農業研究所研究費(運営費)	13,489 (100%)	1,972	11,517	11,517	—	—	圃場管理費、実験農場運営費など
	計	43,261 (100%)	31,744	11,517	11,517	—	—	
施設・備品整備	農業総合センター機能強化対策事業費	27,729 (119%)	1,565	26,164	3,360	—	—	文部科学省「特別電源科学技術振興補助金」等
総計		139,704 (108%)	64,075	75,629	26,083	—	—	

(3) 試験研究事業一覧(資料1、2)

平成26年度当初に実施予定の試験研究及び事業は、試験研究が59課題、試験研究関連事業が7課題である。この内、外部評価の対象課題は、外部資金課題、別途審査で採択された課題、品種育成などの継続課題、及び関連事業を除き、23課題となっている。

これらの対象課題は、毎年、農業普及指導センターや県庁内農林水産関係部署、県内農業関係団体から募集した試験研究要望課題について、岡山県農林水産技術連絡会議農業部会(県庁内部組織)で内容を検討し、新たに試験研究の実施が必要と判断された課題について、外部評価委員会の評価を受けた後、予算化している。なお、今年度から試験研究要望課題を広く県民から募集することを検討している。

試験研究課題の分類

分類	形態	研究課題	関連事業	外部評価対象
農研単独課題	予算化	27	5	16
外部資金(国・独法関連)	応募等	9	1	0
外部資金(民間受託)	受託	6	0	0
普及連携部事業	応募等	11	0	4
県庁農産課事業	令達	6	1	3
計		59	7	23

3. 施設・設備等(資料3)

当研究所の本所(赤磐市)は、敷地面積43.8ha(内、試験圃場25.5ha)に52棟の施設(内、温室23棟)を備えている。また、高冷地研究室(真庭市蒜山)は敷地面積4.1ha(同1.7ha)に5棟の施設を備えている。本所は昭和43年に現在地に移転してから45年が経過しており、また、高冷地研究室は平成22年に旧真庭普及指導センター実証班を改組したもので、いずれも施設は老朽化が進んでおり、修繕や整備に要する費用が年々増加している。

備品については栽培関連の圃場管理機械の更新に努めると共に、調査分析機器については近年の高性能化に合わせて新規購入に努めている。しかし、厳しい財政状況の下、備品整備にかかる一般財源は急激に減少しており、県費での購入が困難な高度精密備品の整備には文部科学省の「特別電源補助事業」を積極的に活用している。これにより、最近では堆肥等の活用研究に必要な土壌や植物の化学分析機器、食味や外観品質の各種測定機器や遺伝子分析に用いる機器等を重点的に整備している。

土地利用概要

1 本所(赤磐市)

区分		面積(ha)
試験圃場	水田作圃場	13.3
	畑作圃場	1.5
	果樹圃場	8.2
	野菜花圃場	2.5
	計	25.5
建物その他		18.3
総計		43.8

2 高冷地研究室(真庭市)

区分		面積(ha)
試験圃場	果樹圃場	0.1
	野菜花圃場	1.6
	計	1.7
建物その他		2.4
総計		4.1

4. 研究成果（過去3年間）

（1）試験研究主要成果（資料4）

試験研究で得られた成果の内、新技術として直ちに利用できる成果を「技術」、課題解決の一部として利用できる成果を「情報」として分類し、岡山県農林水産技術連絡会議農業部会（前出）で内容を検討した後、「試験研究主要成果」として毎年公表している。過去3年間の成果は果樹が32（技術17、情報15）と最も多く、次いで野菜26（技術11、情報15）、水田25（技術16、情報9）と続いており、総計は103（技術50、情報53）に上る。これらは、ホームページで公表するとともに、農業普及指導センター等の指導機関と連携し、生産現場への迅速な普及に努めている。

試験研究主要成果（H23～25）

年度	区分	水田	畑・転換畑	果樹	野菜	花き	農業経営	年計	
H23	技術	3	1	6	3	0	0	13	32
	情報	2	1	7	6	2	1	19	
H24	技術	8	2	6	6	0	0	22	35
	情報	2	0	1	4	4	2	13	
H25	技術	5	3	5	2	0	0	15	36
	情報	5	1	7	5	2	1	21	
計	技術	16	6	17	11	0	0	50	
	情報	9	2	15	15	8	4	53	
	総計	25	8	32	26	8	4	103	

注：「技術」は直ちに普及に移し得る技術。「情報」は課題解決の一部として活用できる成果

（2）特許等知的財産権の取得・活用状況（資料5）

農業研究所で開発した新品種や新技術は知財センターと連携して積極的に知的財産化を進めており、過去3年間では新品種育成者権の登録・出願が5件、特許権の出願が3件となっている。これらを含め、知的財産権等は積極的に現場PRに努めており、特に新品種については利用許諾等を通じて現場への普及と産地化を推進し、平成25年度現在、11品種が約200haで栽培されている。

（3）成果の技術移転や普及の取り組み状況

1）新技術の普及（資料6）

試験研究で得られた新技術や新品種等の情報は、「試験研究主要成果」を中心に農業普及指導センターや関係機関と連携して現場への迅速な普及に努めており、特に重要な成果は「普及推進新技術」として重点的に推進している。その結果、これまでに開発した主な新技術22件の平成25年度の総普及面積は1,446ha、実施農家数はのべ3,742戸に上っている。

2）各種刊行物、論文、学会・研究会発表など（資料7、8、9）

各種刊行物（試験研究主要成果、農業研究所研究報告、農業研究所研究年報、等）を毎年発刊し、ホームページで公開するとともに、農家及び農業指導者向けの技術情報誌等に研究成果の解説記事等を掲載している（3年間で119件）。さらに、「試験研究主要成果」を学術的な見地から検証するため、得られた知見は各種学会等に論文を発表するとともに（同57件）各種学会発表や学術研究会講演を行い（同105件）、各方面からの意見を試験研究にフィードバックしている。

研究成果の解説指導記事掲載や学術発表の件数

年度	解説・指導記事※	研究論文・著書等	学会・研究会発表
23年	34	18	30
24年	41	21	40
25年	44	18	35
総計	119	57	105

※解説指導記事には一般技術指導を含む

5. 技術相談・指導、普及業務、依頼試験、情報提供等の実施状況（過去3年間）

（1）技術相談・指導

農家から普及指導センターなどに持ち込まれたが、解明困難であった病虫害や生理障害等について、平成23～25年度の3年間で1,655件の診断を行い、原因を確定したものについては対策を指導した。また、農家などからの電話などによる技術的相談は3年間で1,694件に対応した（HPへの問い合わせ対応を含む）。

診断及び技術相談の件数

年度	診断依頼	技術相談
23年	639	591
24年	620	568
25年	396	535
総計	1,655	1,694

（2）普及業務（資料10）

試験研究に係る普及業務として、基本的に農業普及指導センター等と連携しながら以下のような様々な対応を行っている。これらには3年間で229件、のべ365人の職員が当たっている。

- ・農家が組織する現場研究会、研修会における技術的指導などの対応（含、現場研修や視察）
- ・農業普及指導センターやJA等の指導機関会議における講師や技術的助言
- ・各種行政会議における専門的な立場からの技術的助言や講演
- ・県内各種農業団体の依頼による各種会議、審議会、損害評価等における技術的助言
- ・各種共進会や品評会における審査（もも、ぶどう、いちご、メロン、なす、花き、茶等）
- ・農薬安全指導員などの公的な資格認定における講師
- ・農業大学校や酪農大学校における講義（年間のべ48回、123時間）

（3）依頼試験等

岡山県の主要農作物の農薬登録に必要な審査資料を得たり、国や民間育成品種の選抜資料を得るため、3年間で農薬試験（殺虫・殺菌剤、除草剤、植物調節剤）は144件、品種試験はのべ88品種について実施した。これらは、前出のように外部資金の受託研究課題と位置づけて予算化している。

（p3～4 予算配分と試験研究事業一覧参照）

- ・農薬登録試験等：殺虫殺菌剤、除草剤、植物調節剤の効果と薬害、残留分析試験
- ・品種選抜試験：岡山県特産農作物の国・民間育成品種の選抜試験

依頼試験の件数

年度	殺虫・殺菌剤	除草剤	植物調節剤	品種選抜
23年	29	12	3	12
24年	37	12	2	38
25年	33	13	3	38
総計	99	37	8	88

（4）情報提供

前出のように、試験研究主要成果の発信、技術相談、各種普及業務の対応など、求めに応じて各種情報提供を実施している。また、病虫害防除所の予察情報等についても逐次提供しており、これらの多くはホームページでも公開している。

（p6 技術相談・指導、普及業務、p7 県民地域への貢献・情報発信の項参照）

6. 人材育成（資料 11）

地方公共団体に属する試験研究機関の職員として、「試験研究の推進」、「現場指導の援助」、「行政対応の技術支援」の三位一体が求められており、これらに対応するための人材育成に努めている。特に、「試験研究の推進」については、各種学会への出席を奨励するとともに、農林水産省等主催の研究会や研修等に職員を派遣し、また、職場内では試験研究打合せ会議、論文記述や学会発表などの機会を捉えて人材育成に取り組んでいる。一方、「現場指導の援助」や「行政対応の技術支援」に関しては、現場研究会や各種行政会議への積極的な参加や、県主催の職員研修などの受講を奨励している。さらに、農業機械の安全使用研修等を開催し、栽培技術の継承にも努めている。

これらの結果、平成 23～25 年度の 3 年間で各種学術研究に対して 5 件の外部受賞・表彰を受けると共に、3 件の職員表彰を受けている。

人材育成における各種研修参加者(のべ人数)

年度	学会	研究会	外部研修会	内部研修会
23 年	37	63	7	38
24 年	49	70	13	39
25 年	39	79	11	41
総計	125	212	31	118

7. 他機関との連携（資料 12）

近年の試験研究領域の広域化や専門化に伴い、異分野を含めた多くの研究機関や大学または民間団体との交流や連携を推進しており、特に農林水産総合センター内の 5 研究機関や国の独立行政法人との共同研究を積極的に実施している。また、岡山県産学官包括連携協定（岡山大学、岡山県農業協同組合中央会、岡山県の三者）に基づく共同研究や共同研修会の実施、民間企業との共同研究にも参画しており、これらの結果、現在、実施している共同研究は 17 課題に上る。

8. 県民・地域への貢献

（１）県民・地域への貢献状況

県民や地域に広く開かれた農業研究所を目指し、以下のような活動を実施している。

- ・県民や関係団体の各種視察の受け入れ（3 年間で 212 件、4,186 名）（資料 13）
- ・農業大学校とタイアップし、農林水産総合センターフェア（一般公開）を開催（10 月）
- ・技術をわかりやすく伝えるランチタイムセミナーの開催（県庁ロビー、年数回）
- ・地元中学校の職場体験への協力・受け入れ（毎年数名、3 日間）

（２）情報発信

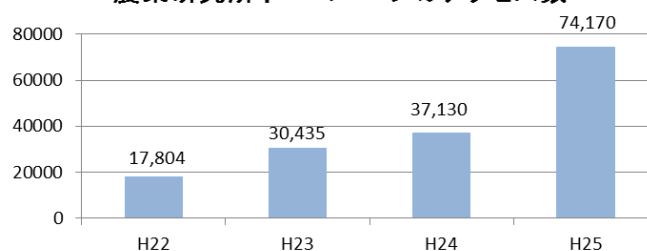
1) 報道での情報発信（資料 14）

研究所の概要や試験研究成果等を広く県民にお知らせするため、報道機関の取材を積極的に受けると共に、新聞の技術情報欄などへの執筆を行っている。この結果、平成 23～25 年度の 3 年間で新聞報道は 87 件、テレビやラジオでの放送は 9 件配信された。

2) ホームページでの情報発信（資料 15）

農業研究所からの情報発信は、基本的媒体としてホームページの活用に重点を置いており、試験研究成果や研究論文等の専門知見の公表は元より、広く県民に広報するため、研究成果をわかりやすく解説した「新技術トピックス」や視察状況等を報道する「農研だより」の欄を設けている。これらの改善の結果、平成 25 年度のアクセス数は平成 23 年度の 2.5 倍に増加した。

農業研究所ホームページのアクセス数



9. 前回指摘事項への対応

(1) 組織体制、及び人員配置並びに予算配分

<指摘事項>

- ・これ以上、予算・人員等が減り、研究所が弱体化しないことを望む。今後も外部資金の獲得に努力する必要がある。
- ・研究所間や普及部門とのより密接な連携が、研究成果の実用化等に繋がることを期待する。

<対応状況>

- ・予算に関しては、一般財源（県費）が年々縮小傾向であるが、外部資金を積極的に獲得した結果、平成 23 年度から概ね横這い状態を維持している。一方、職員数は減少傾向であるが、業務の効率化と試験研究課題の重点化を図り、各種試験研究成果に結びつけている。
- ・連携に関しては、農林水産総合センター内の各研究機関と日頃から連携し、平成 26 年度現在 5 件の共同研究に繋げている。また、県下の技術普及指導センターと試験研究要望や成果検討会、「試験研究主要成果」の現場普及等を通じて連携し、新技術や新品種の実用化に繋げている（p 5 研究成果参照）。

(2) 施設・設備など

<指摘事項>

- ・本館は相当老朽化が進んでおり、現状の施設・設備では不十分と思える。
- ・今後は農産物の放射能汚染検査に対応した機器の導入を計画する必要があるのではないかな。
- ・実験農場の効率的な利用は今後の課題である。

<対応状況>

- ・施設・整備に関しては、厳しい財政状況の下、試験研究に支障が出ないように修繕と整備に努めている。特に備品に関しては特別電源科学技術振興補助金（平成 26 年度 22,804 千円）を活用し、土壌や植物の最新化学分析機器や食味や外観品質の各種測定機器、遺伝子分析機器等の高度精密備品を整備している。また、県立の各研究機関（岡山県立大学、工業技術センターなど 10 機関）と備品の相互利用を進めるなど、充実に努めている。
- ・農産物の放射能汚染分析機器に関しては、上記の県立研究機関の一つである環境保健センターに整備されており、必要に応じて活用している。
- ・実験農場（9 筆・8 ha）に関しては、基礎的研究で得られた成果を大規模圃場で総合的に実証するための重要な拠点であり、平成 24 年度からは米麦を中心とした効率的な水田農業経営モデル確立のための総合的実証試験を実施している。また、原種圃事業の圃場としても活用しており、今後とも大規模実証研究が可能な貴重な圃場として効率的な利用に努めたい。

(3) 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験等の実施状況

<指摘事項>

- ・農業試験場場友会を復活させ意欲ある農家に高い技術指導を指導して欲しい。

<対応状況>

- ・農業試験場場友会は、主に稲作農家の試験研究への協力と技術研鑽を目的に昭和 26 年に設立された組織であったが、運営上の課題から平成 22 年度に解散し、復活は難しい状況にある。このため、農業研究所としては大規模稲作農家を中心としたヤングライスネットワークや果樹研究会などの農業者組織との連携を充実強化し、農業普及指導センターや農業関係機関と協力しながら新技術の現場への普及・指導にあたっている。

(4) 県民への情報発信

<指摘事項>

- ・ホームページは重要な情報発信手段であるので、活用についても検討しておく必要がある。
- ・生産者、農業技術者対象の新技術紹介を継続実施したほうがよい。

<対応状況>

- ・現在、ホームページを重要な情報発信手段と位置づけており、試験研究成果や論文等の専門知見の公表に努めている。また、研究成果をわかりやすく解説した「新技術トピックス」や「農研だより」の欄を新設し、問い合わせ欄を含めたアクセス数は急増している。今後ともホームページの充実に努め、生産者や農業技術者を含めた県民に向けて情報を発信していきたい。

資 料

- 資料 1 平成 26 年度 農業研究所試験研究課題体系図
- 資料 2 試験研究関連事業一覧
- 資料 3 農業研究所の主な施設・備品
- 資料 4 試験研究主要成果一覧（平成 23～25 年）
- 資料 5 農業研究所の知的財産普及状況
- 資料 6 農業研究所が開発した主な新技術普及状況
- 資料 7 解説・指導記事一覧（平成 23～25 年度）
- 資料 8 研究論文等一覧（平成 23～25 年度）
- 資料 9 学会・研究会発表一覧（平成 23～25 年度）
- 資料 10 技術普及のための研究会・研修会などへの対応（平成 23～25 年度）
- 資料 11 受賞・表彰（平成 23～25 年度）
- 資料 12 農業研究所における共同研究実施課題（H26 実施中）
- 資料 13 視察受入状況（平成 23～25 年度）
- 資料 14 新聞掲載記事（平成 23～25 年度）
- 資料 15 農業研究所ホームページ

平成26年度 農業研究所 試験研究体系図

病害虫対策事業費：試験研究3課題、関連事業1課題

* 病害虫発生予察事業(継続)(病虫研、高冷地研)

病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業(試験研究3課題)

- ・主要農産物における殺菌剤耐性菌の発生実態の解明と有効薬剤の選抜(25～27)(病虫研)
- ・緑色LEDを用いたモモの減農薬防除技術の確立(25～27)(病虫研)
- ・促成栽培ナスのミナミキロアザミウマに対する新たな天敵を組み合わせた総合防除体系の確立(25～27)(病虫研)

農業総合助成試験費：試験研究7課題

指定試験受託事業(試験研究7課題)

- ・西日本のモモ生産安定のための果肉障害対策技術の開発(25～27)(果樹研)
- ・土着天敵タバコカミカメの持続的密度管理によるウイルス媒介虫防除技術の開発・実証(24～26)(野菜・花研、病虫研)
- ・温暖化に対応した夏秋需要期キク安定開花調節技術の開発(22～26)(野菜・花研)
- ・周年安定生産を可能とする花き栽培技術の実証研究(25～29)(野菜・花研)
- ・農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業(25～32)(環境研)
- ・ブドウ根頭がんしゅ病新規拮抗細菌の環境中の動態と防除機構の解明(25～27)(病虫研)
- ・温暖化に対応したダイコン新品種の開発(22～26)(高冷地研)

農業研究所研究費：試験研究32課題、関連事業5課題

特別研究(試験研究1課題)

- ・バイオテクノロジー利用による地域特産品種の育成とクローン種苗大量増殖法の確立(継続)(野菜・花研)
 - └ リンドウ優良親株の維持とクローン増殖
 - └ 遺伝子解析による病害虫診断

一般研究(試験研究24課題)

作物・経営研究室(試験研究4課題)

- ・大規模経営に対応した効率的な稲作システムの確立(25～27)★
- ・ビール大麦「スカイゴールド」の高品質安定生産技術の確立(25～27)★
- マルチ栽培による「おかやま黒まめ」の高品質生産技術の確立(26～28)★
- 県産ぶどうにおける消費者ニーズと販売形態の方向(26～28)★

果樹研究室(試験研究5課題)

- ・果樹新品種の育成(継続)
- ・果樹導入品種の選定(継続)
- ・モモのオリジナル新品種の高品質安定生産技術の確立(24～28)★
- ・ブランド化を目指した「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立(22～26)★
- ・「シャインマスカット」の省エネルギー型温度管理体系の確立(25～27)★

野菜・花研究室(試験研究4課題)

- ・促成ナスの日焼け果防止技術の確立(25～27)★
- 低コスト化を目指した促成ナスの炭酸ガス局所施用技術の開発(26～28)★
- 「くだもの王国おかやま」を彩るイチゴ新品種の育成(26～30)★
- ・岡山オリジナルフラワーの次世代品種の開発(25～29)★

環境研究室(試験研究3課題)

- ・水田作における緑肥を活用した低投入型施肥技術の確立(23～27)★
- ・堆肥と化成肥料を混合した新規肥料設計技術の開発(25～27)★
- ・ブドウ安定生産のための施肥方法の改善(24～28)★

高冷地研究室(試験研究2課題)

- 岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系の確立と栽培技術の改善(24～28)★
- 高冷地域に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術の確立(23～27)★

現地緊急・予備試験(試験研究6課題)

- 水稻・麦類作況試験(継続)(作物・経営研)
- ナシ新品種の育成(継続)(果樹研)
- (新) 家畜ふん堆肥およびケイ酸資材の同時施用による水稻肥培管理技術の確立(26～27)(環境研)
- ブドウ根頭がんしゅ病拮抗細菌の製剤化に伴う圃場効果試験(23～26)(病虫研)
- (新) CPPU剤を利用した夏秋トマトの裂果軽減技術の確立(26～28)(野菜・花研)
- 黄ニラの高品質・安定生産技術の確立(25～27)(野菜・花研)

特別事業(試験研究6課題)

- 特産作物の遺伝資源管理(ジーンバンク)事業(継続)(野菜・花研究室他関係研究室)
- 収量及び加工適性に優れた白小豆新品種の育成強化(25～27)(作物・経営研)
- 水稻・麦類新除草剤実用化試験(継続)(作物・経営研)
- 植物調節剤実証試験(継続)(果樹研)
- 育成系統評価にかかる栽培、調査業務(継続)(野菜・花研)
- 農作物主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験(継続)(病虫研)

一般事業(関連事業5課題)

- *バレイショ原種圃事業(継続)(野菜・花研)
- *病害虫・生育障害の診断と対策指導(継続)(環境研、病虫研)
 - └ 病害虫による障害の原因究明と対策(病虫研)
 - └ 土壌に起因する生理障害の原因究明と対策(環境研)
- *主要農作物品種試験(水稻、麦類、大豆)(継続)(作物・経営研)
- *主要農作物原種圃事業(水稻、麦類、大豆)(継続)(作物・経営研)
- *土壌機能増進対策事業(継続)(環境研)
 - └ 土壌機能実態モニタリング調査
 - └ 化学肥料・堆肥等の適正使用指針策定調査

実験農場運営費(試験研究1課題)

- 実験農場における水田農業の総合的実証試験(24～)(作物・経営研))

試験研究:42課題(新規6課題、継続36課題)、試験研究関連事業:6課題(総て継続課題)

注: ・は試験研究課題、*は試験研究関連事業課題を示す。

★は外部評価対象課題

農業研究所別途予算

普及連携部予算(農総セ連携事業促進費)(試験研究11課題)

産学連携推進事業費(試験研究6課題)

外部知見活用型・産学官連携研究事業(試験研究3課題)

- ・味覚センサを用いた県産野菜の味の視覚化手法の開発(25～27)(環境研、野菜・花研、高冷地研)
- ・木質バイオマスを素材とした樹木の凍害防止資材の開発(25～27)(果樹研、高冷地研)
- ・モモの育種効率を向上させるDNAマーカーによる選抜技術の確立(26～28)(果樹研)

農林水産分野における温暖化対策研究強化事業(試験研究3課題)

- ・きぬむすめ、にこまるの高品質生産技術の確立と温暖化対応品種の選定(24～28)(作物・経営研)★
- ・気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立(24～28)(果樹研)★
- ・夏秋雨除けトマト栽培における高温・強日射に起因する裂果対策(24～28)(高冷地研)★

岡山県の主要農産物の安定的な生産に係る調査研究

ブランディングを目指した新技術開発事業(試験研究1課題)

- ・個人消費のスタイルに即したブドウ生産技術の開発(26～28)(果樹研、作物・経営研)★

地域バイオマス資源活用技術開発事業(試験研究2課題)

- ・リンドウの連作障害を回避する木質栽培床の開発(26～29)(高冷地研)(★森林研究所主査)
- ・規格や用途に適応したペレット化肥料等の開発(26～29)(環境研)(★畜産研究所主査)

知的財産創出・活用事業費(試験研究2課題)

- ・機能性果実袋によるナシの果肉障害対策試験(26～27)(果樹研)
- ・軟弱野菜における施肥による食味変化の数値化手法の開発(26～27)(環境研)

農産課予算(病害虫等防除総合対策事業費)(試験研究3課題)

難防除病害虫防除技術確立事業(試験研究3課題)

- ・マイナー作物等病害虫防除対策事業(継続)(環境研、病虫研)
- ・トマトすすかび病の多発要因の解明による総合防除技術の開発(24～26)(病虫研)
- ・ブドウのチャノキイロアザミウマの防除対策の確立(24～26)(病虫研)

農産課予算(試験研究3課題、関連事業1課題)

- ・枝豆の優良系統の選抜と優良系統種子の安定生産(26～30)(作物・経営研)★
- ・ブランディングに向けた枝豆の味分析と鮮度保持技術の開発(26～30)(環境研)★
- ・「紫苑」の出荷期間拡大技術の確立(24～26)(果樹研)★
- ＊農業用水調査事業(継続)(環境研)

試験研究:17課題(新規8課題、継続9課題)、試験研究関連事業:1課題(継続)

注:・は試験研究課題、＊は試験研究関連事業課題を示す。

★は外部評価対象課題

試験研究関連事業一覧

事業名	事業内容
1. 主要農作物原種ほ事業	農作物の生産や品質の改善のためには優良な種子の確保・普及が極めて重要である。特に基幹作物である水稻、麦類、大豆奨励品種の原原種、原種生産は、「主要農作物種子法」により都道府県にその責任があり、岡山県では明治 42 年から農業研究所が担当している。平成 26 年現在、水稻 9 品種、麦類 3 品種、大豆 2 品種について実施している。
2. 主要農作物品種試験	水稻、麦類、大豆等主要農作物の奨励品種は「主要農作物種子法」で都道府県が決定すると定められており、岡山県では昭和 28 年から農業研究所が調査を実施している。消費者ニーズに合致する、安定・多収で栽培しやすい品種を選定するため、26 年度は水稻 57 品種、麦類 19 品種、大豆 9 品種について実施している。また、本県を代表する水稻「朝日」の脱粒性品種を育成する。
3. 土壌機能増進対策事業	安全な農産物を安定的に生産するためには、堆肥等を活用した適切な土壌管理により、土壌機能の増進を図ることが重要である。そこで、県内の代表的産地について毎年 3 集団、20～30 地点／集団の土壌診断および土壌管理状況の調査を行い、土壌管理上の問題点を明らかにするとともに適正な土壌管理指針を示す。
4. バレイショ原種圃事業	県内にバレイショの優良な原種を増殖・配布するのは「ばれいしょ原原種、茶原種及びサトウキビ原原種配布要綱」に基づき都道府県が行う事業である。現在、種苗生産は、岡山県馬鈴薯採種農協に委託している。
5. 病虫害発生予察事業	「植物防疫法」に基づき、病虫害による損害を未然に防止することを目的として、病虫害の発生状況などを調査して発生と被害を予察し、発生予察情報を関係機関に提供する。各道府県の病虫害防除所で実施しているが、岡山県では農林水産総合センターに併置されており、15 品目 157 病虫害について実施している。
6. 病虫害・生育障害の診断と対策指導	農業普及指導センターを通じて持ち込まれた被害作物を迅速に診断し、原因を特定して普及指導センター等を通じて防除指導する。毎年 1,000 件程度の診断・指導実績がある。
7. 農業用水調査事業	児島湖の水質改善を目的として、児島湖周辺における笹ヶ瀬川水系、倉敷川水系について農業用水の水質と残留農薬を調査する。

農業研究所の主な施設

1 本所(赤磐市)

名 称	数量	構 造	面積(m ²)	活用状況
本館	1	鉄筋コンクリート造4階建	3,269	事務室、実験室、測定室、分析室等
低温加工試験室	1	鉄骨造スレート葺平屋建	282	食品加工実験
土壌診断室	1	鉄筋コンクリートブロック造	119	土壌診断
公害ガス抵触	1	ブロック造スレート瓦葺平屋建	87	化学分析
試験調査作業室	8	鉄骨造スレート葺平屋建	1,786	各種調査、原種の調整、機械修理等
ライスセンター	1	鉄骨造スレート葺平屋建	325	ライスセンター
農場整備員室	1	鉄骨造スレート葺平屋建	132	休憩室
機械格納庫	6	鉄骨造スレート葺平屋建	567	農業機械保管
機材、肥料、薬品庫	1	鉄骨造スレート葺平屋建 他	430	農機具、肥料、農薬保管
原種倉庫	1	鉄骨造スレート葺平屋建	161	原種保管
温室	1	鉄骨造プラスチック葺平屋建	1,077	果樹、野菜、花等の栽培試験
	22	鉄骨造ガラス葺平屋建	3,509	
天敵飼育・増殖施設	2	木造スレートガラス瓦葺平屋建他	178	昆虫実験
堆肥舎	2	鉄骨造スレート葺平屋建 他	150	堆肥作成と保管
用土調整室	2	鉄骨造スレート葺平屋建 他	159	野菜、花用培土作成
培養室	1	ブロック造陸屋根葺平屋建	96	植物生理実験

2 高冷地研究室(真庭市)

名 称	数量	構 造	面積(m ²)	活用状況
事務、研究棟	1	鉄骨造瓦棒葺平屋建	241	事務所、分析室、顕微教室等
作業棟	1	鉄骨造瓦棒葺平屋建	97	調査室
	1	木造トタン葺平屋建	198	作業室
倉庫	1	ブロック造セメント瓦葺平屋建	40	肥料等諸資材置場
機械庫	1	鉄骨造スレート葺平屋建	64	機械庫

農業研究所の主な備品

区 分	備 品
圃場管理機器	トラクター、田植機、耕耘機、コンバイン、種子用コンバイン、籾摺機、掘削機械(草刈りアタッチメント付)、乗用型バロネス草刈機、トラクター前装式草刈機、蒸気土壌消毒器、スपीドスプレーヤー、ブームスプレーヤー、種子用遠赤外線乾燥機、チップーシュレダー、ボイラー、小型ホイルローダー、ショベルホイルローダー、土壌改良機グロースガン
土壌・化学分析機器	気象観測システム、光合成蒸散測定装置、温度データ集録装置、味度測定装置、フルーツセレクトター(非破壊糖度計)、分光測色計、電子顕微鏡(透過型、走査型)、マイクローム、マイクロマニピレーター、人工降雨装置、病原菌接種用高湿度環境制御庫、植物人工育成装置、人工気象器
生物工学 遺伝子分析機器	蛍光X線分析装置、高速冷却遠心機、ドラフトチャンバー、ガスクロマトグラフ装置、液体クロマトグラフ装置、炭素・窒素測定装置、分光光度計、高速処理比色分析装置、高周波ガラスマ発光分析装置、近赤外線分析装置、アクアテックアナライザー、デジタル写真測量ツール(パスコアーダス)
その他 実験測定機器	電気泳動装置、超低温恒温恒湿機、滅菌装置、超低温フリーザ、細胞融合装置、リアルタイムPCR装置、マルチビーズジョッカー、

平成23年度試験研究主要成果一覧（32課題）

○水田作部門

1. 「きぬむすめ、にこまる」の作期、施肥量と収量及び品質（情報）
2. 岡山県における発酵粗飼料用水稲品種の生育特性（情報）
3. 大区画圃場における鶏ふん施用を組み合わせた水稻疎植栽培の経済性（技術）
4. 水稻の有機育苗における鶏ふんの利用方法（技術）
5. 水稻栽培におけるカリウム減肥基準の策定（技術）

○畑・転換畑作部門

1. 機能性、食味関連成分に優れた有色大豆有望系統の特性（情報）
2. 黒大豆「岡山系統1号」のセルトレイ育苗において健苗率を向上させる管理方法（技術）

○果樹部門

1. 早生のモモ新品種「さきがけはくとう」の育成（技術）
2. 「おかやま夢白桃」の果肉着色を低減する葉色による肥培管理の目安（情報）
3. 満開からの積算温度による「清水白桃」の硬核開始日の把握（情報）
4. 「清水白桃」は収穫前10～20日間の異常高温によって成熟が遅れる（情報）
5. モモ収穫後の尿素葉面散布による翌年の初期生育促進（技術）
6. フルメット花穂発育促進処理による「シャインマスカット」若齡樹の果粒肥大促進（技術）
7. 「紫苑」の現地栽培園における栽培上の課題とその要因（情報）
8. 「ピオーネ、オーロラブラック」無加温二重被覆栽培での点滴灌水施肥技術（情報）
9. 省エネ対策としての「マスカット」加温栽培の変温管理技術（技術）
10. マグネシウム葉面散布による「ピオーネ」休眠枝のデンプン低下抑制効果（情報）
11. ストロビルリン系薬剤耐性のブドウ褐斑病菌に効果の高い薬剤防除体系（技術）
12. パダンSG水溶剤によるブドウのクビアカスカシバの防除対策（技術）
13. ブドウ樹のクビアカスカシバ幼虫による前年までの被害痕数と当年被害量の関係（情報）

○野菜部門

1. トマトかいよう病及び青枯病発病株の早期抜き取りによる土壌伝染抑制効果（技術）
2. トマト葉かび病の防除に効果的な殺菌剤散布時期（情報）
3. 夏秋ナス露地栽培に適した全量基肥施肥法（技術）
4. 県内に発生している薬剤耐性ナスすすかび病菌の有効薬剤（情報）
5. 薬剤耐性ナスすすかび病菌に対する有効薬剤の予防効果と残効性（情報）
6. 促成栽培ナスのミナミキイロアザミウマに対する効果的な薬剤防除体系（技術）
7. 冷蔵庫を用いたイチゴ長期間暗黒低温処理における入庫前わい化剤処理の効果（情報）
8. 県内で発生している黒大豆エダマメの褐色のしみ症状の発生原因と発生の様相（情報）
9. 塩類集積圃場における点滴灌水を利用した野菜の発芽障害対策（情報）

○花き部門

1. ブルーレースフラワーの効率的採種方法（情報）
2. 暗期中断処理を用いた夏秋需要期連続出荷に利用可能性が高い小ギク品種（情報）

○農業経営部門

1. 経営面積別の集落営農法人等の財務状況（情報）

注：（技術）直ちに普及に移し得る技術。（情報）課題解決の一部として活用できる成果

平成24年度試験研究主要成果一覧（35課題）

○水田作部門

1. 「きぬむすめ」の品質が低下しやすい出穂後の温度条件（情報）
2. 発育速度モデルを用いた「きぬむすめ」の出穂後の温度条件の推定方法（情報）
3. 「きぬむすめ」の収穫適期の判定指標（技術）
4. 「にこまる」の収穫適期の判定指標（技術）
5. 「ヒノヒカリ、アケボノ」の発酵粗飼料用水稲としての特性（技術）
6. 実肥施用による「ヒノヒカリ、アケボノ」の発酵粗飼料の粗蛋白質含有率向上（技術）
7. 「アケボノ」の発酵粗飼料生産における堆肥連用による省力・低コスト栽培（技術）
8. 「たちすずか」の種子生産に適した施肥方法（技術）
9. 飼料米用「ヒノヒカリ」の立毛乾燥に適した収穫時期（技術）
10. 発酵粗飼料用水稲栽培における土壌可給態窒素量を考慮した窒素施肥方法（技術）

○畑・転換畑作部門

1. 小麦の奨励品種「ふくほのか」（技術）
2. ビール大麦「おうみゆたか」の全量基肥栽培に適した肥料の配合割合（技術）

○果樹部門

1. 燃焼資材による低温時の気温及びモモ樹体温度の上昇効果（情報）
2. 糖度の高い「シャインマスカット」生産のための適正着果量（技術）
3. トンネル除去による夏期高温年の「ピオーネ」果実の品質向上（技術）
4. 「マスカット、ピオーネ」加温栽培の早期保温と変温管理による省エネ対策（技術）
5. 年末出荷を目指した「紫苑」の加温による果実の品質保持（技術）
6. 「マスカット」の白紋羽病に対する温水点滴処理の治療効果（技術）
7. イチジク株枯病に対するオンリーワンフロアブルの適用（技術）

○野菜部門

1. 昼加温と炭酸ガス施用の併用による促成ナスの増収・品質向上効果（情報）
2. 1果重が大きく多収である四季成り性イチゴ系統「Y」の育成（情報）
3. 夏播きキャベツ栽培でのリン酸減肥基準（技術）
4. ねぎ用管理機を用いたリーキの葉鞘部への土の侵入が少ない土寄せ方法（技術）
5. 黄ニラは5℃で予冷をすることで調整作業中の緑化を抑制できる（技術）
6. ニラを軟化栽培すると遊離アミノ酸が多くなる（情報）
7. 晩秋～初冬どりダイコン品種「冬職人」の糖度と収穫前の最低気温との関係（情報）
8. 有機栽培のカリウム欠乏圃場に適した新肥料の開発（技術）
9. 有機野菜栽培における養分が集積しにくい施肥管理方法（技術）
10. トレビスの菌核病に対するカンタスドライフロアブルの適用（技術）

○花き部門

1. 暗期中断による開花抑制効果が高い品種を用いた小ギクの夏秋需要期連続出荷（情報）
2. 「岡山リンドウ2号」に有効なジベレリン処理時期（情報）
3. ブルーレースフラワー新品種「岡山BLF1号」の育成（情報）
4. ブルーレースフラワーの雄ずいの落下軽減法（情報）

○農業経営部門

1. 岡山米に対する米穀卸のニーズ（情報）
2. 岡山米に対する県内の外食等業者のニーズ（情報）

平成25年度試験研究主要成果一覧（36課題）

○水田作部門

1. 県南部で作付が拡大している「にこまる」の疎植適性（技術）
2. 水稲乾田直播栽培の入水前に使用できる茎葉処理除草剤の特徴（情報）
3. 水稲作における緑肥の生育ステージ別の窒素肥効パターン（情報）
4. 水稲作における緑肥の望ましいすき込み時期（技術）
5. レングを黄熟期にすき込むと自然発芽して翌年の緑肥として利用できる（技術）
6. 水稲栽培のリン酸減肥指針（技術）
7. 県内水田のリン酸・カリウム減肥区分とそれに適した低コスト肥料の選定（情報）
8. 水稲作における鶏ふん施用から入水までの期間を考慮した施肥設計方法（技術）
9. 県内水田における温室効果ガスの吸収源となる炭素貯留量の概要（情報）
10. 岡山県における QoI 剤に対する薬剤耐性イネいもち病菌の発生状況（情報）

○畑・転換畑作部門

1. ビール大麦の地域適応優良品種「スカイゴールド」 （技術）
2. 県産ビール大麦の品質向上に役立つ全量基肥肥料の開発（技術）
3. 黒大豆「岡山系統1号」の枝豆収穫期を拡大できる7月播種での最適な栽植密度（技術）
4. 黒大豆「岡山系統1号」のセルトレイ育苗ではヘソを横向きに播種する（情報）

○果樹部門

1. 8月下旬に成熟する極晩生のモモ新品種「岡山モモ11号」の育成（技術）
2. 9月上旬に成熟する極晩生のモモ新品種「岡山モモ14号」の育成（技術）
3. 「さきがけはくとう」の若木における主枝形成時の留意点（情報）
4. 「さきがけはくとう」の摘果における留意点（情報）
5. モモ若木の凍害を防止する主幹部の保護対策（技術）
6. 「ひだ国府紅しだれ」台木を用いた「清水白桃」若木の生育特性（情報）
7. 県南部のモモせん孔細菌病の発生を助長する環境要因（情報）
8. 「シャインマスカット」の簡易被覆栽培での新梢の摘心位置（技術）
9. 降霜時の燃焼資材使用による簡易被覆ブドウ園での昇温効果（情報）
10. ネギアザミウマの加害により生じる「マスカット」の果粒被害（情報）
11. ブドウのチャノキイロアザミウマの薬剤感受性（情報）
12. イチジク株枯病の新しい農薬「IC ボルドー66D」（技術）

○野菜部門

1. 太陽光発電を利用した黒大豆「岡山系統1号」枝豆の電照抑制栽培（技術）
2. 促成ナス栽培における高温換気による炭酸ガス施用効果の向上（情報）
3. 黄ニラ軟化処理途中の日入れ処理による黄色発色向上技術（技術）
4. 味覚センサ分析で明らかになった黄ニラの味わい（情報）
5. ニンニクの大玉生産に望ましい植え付けりん片の大きさ（情報）
6. 夏秋雨除け栽培トマトにおけるすすかび病の発生の動態（情報）
7. ミナミキイロアザミウマの天敵であるタバコカスミカメへの影響が小さい農薬の選定（情報）

○花き部門

1. 夏秋小ぎくの電照抑制栽培における再電照による開花微調節方法（情報）
2. 樹皮を利用したリンドウのコンテナ栽培（情報）

○農業経営部門

1. 岡山県の集落営農の特徴と課題（情報）

農業研究所の知的財産普及状況

1 育成者権(登録・出願品種)

作物名	品種名称	登録年月日	特 徴	利用許諾	普及状況等(H25)
稲	ふっくらもち	H17.9.13	コシヒカリ並の良食味、難倒伏性、湛水直播に適する早生種	○	1.1ha
	あかおにもち	H18.7.13	珍しい赤い糯(もち)米	○	42a
あずき	夢大納言	H18.7.13	加工適性が高く、県南部でも栽培しやすい	○	2.4ha(高梁市を中心)
もも	白麗	H11.7.21	肉質と食味が最高級	○	25ha
	清水白桃RS	H16.11.8	放射線育種、黒斑病に強いが結実率が低い	●	6ha
	おかやま夢白桃	H17.3.14	作りやすく、大玉、高糖度	○	88ha
	さきがけはくとう	H25.6.18	外観が白くて食味が優れる早生品種	○	H26年苗木供給
	岡山PEH7号	H26.2.5(出願中)	果皮白色、大果で、高糖度、食味優れる極晩生品種	—	H28年苗木供給予定
	岡山PEH8号	H26.2.5(出願中)	果皮白白色、軟らかく多汁、食味優れる極晩生品種	—	H28年苗木供給予定
ぶどう	オーロラブラック	H15.2.20	着色しやすく、極めて脱粒しにくい	○	79ha
いちご	岡山STB1号	H26.5.12(出願中)	夏秋栽培での収量が多く、大果の四季成り性品種	—	
ゆり	アフロ	H13.2.9	巨大輪、淡桃色で芳香性	●	
	アルテミス	H17.3.14	大輪、白色花卉の中央に紅の筋を有する中生種	●	
	カリステ	H17.3.23	大輪、純白で中生種	●	
	あかねの舞	H19.1.22	中輪、純白で早生種、年に2～3回開花	●	
スイートピー	岡山農試ピー3号(愛称:おかピー)	H22.3.17	花色は中心淡く、旗弁がやや濃いピンクで、巨大輪	未許諾	11a(試作)
ブルーレースフラワー	岡山BLF1号	H24.6.28(出願中)	花青で、生育揃いがよく、草姿が横に広がらず作業性優れる	—	2a(試作)

2 育成品種(系統)

作物名	系統名称	育成時期	特 徴	利用許諾	普及状況等
黒大豆	岡山系統1号	H16	大粒で品質の良い黒大豆	—	毎年300haに種子供給
ラクスパーク	P1C、L24E	H20	電照加温促成栽培用のピンク(P1C)とラベンダー(L24E)	—	3.5a
りんどう	岡山リンドウ1・2号	H22	耐暑性に優れるF1青花品種。1号:盆出荷、2号:彼岸出荷	—	2.1ha

3 特許権

特許名	登録年月日	概要	実施許諾	普及状況
葡萄栽培方法	H19.1.18	密植による早期成園化法	未許諾	
新菌株、該新菌株を用いた根頭がんしゅ病防除剤及び／又は植物種子発芽率向上剤	H23.11.15(PCT出願中)	根頭がんしゅ病防除のための拮抗細菌(PCT出願)	—	—
果実袋	H24.2.8(PCT出願中)	夏季高温による生理障害対策の遮熱袋	—	—
非病原性キサントモナス属細菌菌株及び該菌株を用いた植物病害防除剤	H24.3.16(出願中)	モモせん孔細菌病などの防除のための拮抗細菌(PCT出願)	—	—

網掛けは過去3年間に登録または出願したもの ○は許諾中、●は過去に許諾があったもの

農業研究所が開発し、重点推進している普及推進新技術

NO.	技 術 名
1	鶏ふん施用を組み合わせた水稻疎植栽培技術
2	ヒノヒカリ遅植栽培の出穂期予測と作期設定による高温障害回避技術
3	小麦「ふくほのか」の高品質安定生産技術
4	「たちすずか」の種子生産に適した施肥方法
5	飼料米用「ヒノヒカリ」の立毛乾燥に適した収穫時期
6	ビール大麦の蛋白質向上対策技術
7	マグネシウム肥料の施用による黒大豆の収量向上技術
8	被覆肥料の施用による黒大豆の収量向上技術
9	もも収穫後の尿素葉面散布による翌年の初期生育促進技術
10	もも園における硬核期前からの防水部分マルチ敷設による高品質安定生産技術
11	もも「おかやま夢白桃」の摘果技術
12	ぶどうの灌水、施肥の自動化技術
13	年末出荷を目指した「紫苑」の加温による果実の品質保持技術
14	クビアカスカシバの防除技術
15	ブドウ（マスカット、ピオーネ）の変温管理による省エネ技術
16	フルメット花穂発育促進処理による「シャインマスカット」若齢樹の果粒肥大促進技術
17	炭酸ガス施用によるイチゴの収量向上技術
18	イチゴ炭疽病防除技術（太陽熱消毒及び薬剤散布による二次伝染防止）
19	トマトかいよう病及びトマト青枯病の二次伝染抑制技術
20	リンドウ新品種「おかやま夢りんどう早生2号」と「おかやま夢りんどう中生」の普及
21	ブプレウラムの超促成栽培における安定生産技術
22	電照加温促成栽培に適したおかやまオリジナルラークスパー優良系統の普及
合計	

解説・指導記事一覧

平成23年度

〔水田作部門〕

1. 飼料用稲栽培における施肥コストの低減 日本農業新聞
2. 高糖分飼料イネ安定多収栽培のための堆肥施用指標の作成 農林水産総合センター公開セミナー

〔畑・転換畑作部門〕

1. 麦類の子実蛋白質含有率の向上 日本農業新聞

〔果樹(全農岡山)部門〕

1. 果樹(全農岡山)研究室における研究成果 その1 果樹(全農岡山)
2. 果樹(全農岡山)研究室における研究成果 その2 果樹(全農岡山)
3. 乱立するブドウ品種を考える 山梨の園芸
4. モモ 若木管理のポイント 果樹(全農岡山)
5. 今年の栽培反省と次年度対策 モモ 果樹(全農岡山)
6. 来年産に向けた収穫後の管理について—モモ— 果樹(全農岡山)
7. 果樹(全農岡山)園管理のポイント ブドウ 果実日本
8. ブドウの着果量は適正ですか—適正着果量を心掛けよう— 果樹(全農岡山)
9. 来年産に向けた収穫後の管理について ブドウ 果樹(全農岡山)
10. 今年の栽培反省と次年度対策 ブドウ 果樹(全農岡山)
11. 温暖化とブドウの休眠覚醒予測について 果樹(全農岡山)
12. 今年の栽培反省と次年度対策 温室ブドウ 果樹(全農岡山)
13. 今月の果樹(全農岡山)園管理 温室ブドウ 果樹(全農岡山)
14. 平成23年度 岡山県マスカット・オブ・アレキサンドリア共進会の審査結果 果樹(全農岡山)
15. ポスト次世代フルーツの栽培方法～瀬戸ジャイアンツ～ 果樹(全農岡山)
16. 「紫苑」の栽培実態と高品質生産に向けたヒント 果樹(全農岡山)
17. 注目品種の栽培技術と留意点 ブドウ「瀬戸ジャイアンツ」 果実日本
18. 環境研究室における研究成果 果樹(全農岡山)
19. 糖度の高いももをつくるための栽培管理指標 グリーンレポート
20. 土壌診断結果の見方と改善方法 果樹(全農岡山)
21. 病虫研究室における研究成果 果樹(全農岡山)
22. 今月の果樹(全農岡山)園管理(病害虫) 果樹(全農岡山)
23. パダンSG水溶剤がブドウのスカシバ類に適用拡大されました 果樹(全農岡山)
24. イチジク株枯病の総合防除について 果樹(全農岡山)
25. 今年問題となった病害虫とその対策 果樹(全農岡山)

〔野菜部門〕

1. 害虫誘引植物を用いた雨除け栽培トマトでの白ぶくれ症抑制 農耕と園藝
2. ナス科果菜類における花粉媒介昆虫の利用 農林水産総合センターセミナー
3. 菜種油かすぼかしを用いた有機液肥の作製方法 農耕と園藝
4. 白ねぎ秋どり栽培でのリン酸基肥の削減 日本農業新聞

〔花き部門〕

1. リンドウ短茎早期開花茎の発生について 日本農業新聞
2. おかやまオリジナルリンドウの育成と新栽培法の開発 農林水産総合センター公開セミナー

平成24年度

〔畑・転換畑作部門〕

1. 丹波黒ダイズセルトレイ育苗の注意点 日本農業新聞

〔果樹(全農岡山)部門〕

1. 果樹(全農岡山)研究室における研究成果 その1 果樹(全農岡山)
2. 果樹(全農岡山)研究室における研究成果 その2 果樹(全農岡山)
3. モモの果肉障害について 果樹(全農岡山)
4. 今年の栽培反省と次年度対策 モモ 果樹(全農岡山)
5. 次世代フルーツ「おかやま夢白桃」の栽培上の留意点ー果皮、果肉の着色対策を中心に 果樹(全農岡山)
6. ナシのジベレリンペーストによる側枝更新法 果実日本
7. 翌年の初期生育促進・安定生産に向けたモモの収穫後の管理について 果樹(全農岡山)
8. 次世代フルーツ(ブドウ)の果房管理についてーオーロラブラックー 果樹(全農岡山)
9. 加温ブドウ コスト削減に向けた省エネ対策 果樹(全農岡山)
10. シャインマスカットの加温栽培について 果樹(全農岡山)
11. 次世代フルーツ(ブドウ)の果房管理についてーシャインマスカットー 果樹(全農岡山)
12. 次世代フルーツ(ブドウ)の着果管理についてーシャインマスカットー 果樹(全農岡山)
13. 今年の栽培反省と次年度対策 ブドウ 果樹(全農岡山)
14. 次世代フルーツ(ブドウ)の果房管理についてー紫苑ー 果樹(全農岡山)
15. 次世代フルーツ(ブドウ)の着果管理についてー紫苑ー 果樹(全農岡山)
16. 今年の栽培反省と次年度対策ー温室ブドウー 果樹(全農岡山)
17. 環境研究室における研究成果 果樹(全農岡山)
18. 長期輸送に伴うモモの日持ち向上対策について 果樹(全農岡山)
19. 堆肥の種類と肥効について 果樹(全農岡山)
20. 土づくりにおける深耕の考え方 果樹(全農岡山)
21. 果樹(全農岡山)類根頭がんしゅ病防除技術の研究最前線 果樹(全農岡山)種苗
22. 病虫研究室における研究成果 果樹(全農岡山)
23. 今月の果樹(全農岡山)園管理(病虫害) 果樹(全農岡山)
24. ストロビルリン系薬剤に耐性を持つブドウ褐斑病の防除対策 グリーンレポート
25. ブドウべと病、晩腐病の発生生態と防除対策について 果樹(全農岡山)
26. モモせん孔細菌病の生態と防除対策 果樹(全農岡山)
27. ブドウべと病の防除薬剤と耐性菌対策について 果樹(全農岡山)
28. モモハモグリガの生態と防除対策について 果樹(全農岡山)
29. 今年問題となった病虫害とその対策 果樹(全農岡山)
30. スモモ枝枯病、モモ黒斑病、ブドウラシオディプロディア房枯病、ブドウうどんこ病 インターネット版日本植物病害大事典病害新情報

〔野菜部門〕

1. イチゴ新品種の特性について 日本農業新聞
2. 施設野菜圃場の発芽障害軽減対策 日本農業新聞
3. 雨除け栽培で発生するトマトかいよう病に対する総合防除対策 植物防疫
4. EBC(Evidence-based Control)の概念とその実践ーOn-farm researchにおけるその重要性ー 植物防疫
5. On-farm researchの意義とその重要性 EBC研究会誌
6. トウガン褐色あざ病、タイサイ類ピシウム腐敗病、エンダイブ腐敗病、ハクサイ黄化モザイク病 インターネット版日本植物病害大事典病害新情報

9. 甘くておいしい「こだわり大根」糖度・根重と気温の関係 日本農業新聞
10. 夏秋雨除けトマト栽培における高温・強日射に起因する裂果対策 県立研究機関協議会資料
11. 夏秋雨除けトマト栽培における高温・強日射に起因する裂果対策 農業とその関連分野に係る産学連携推進協議会「現地調査」資料

[花き部門]

1. インパチェンス類えそ斑紋病、シネリリアえそ斑紋病、チドリソウベと病、ポインセチア褐斑病、トルコギキョウ輪紋病 インターネット版日本植物病害大事典病害新情報

平成25年度

[水田作部門]

1. 鶏ふんの窒素肥効予測に基づく水稻「ヒノヒカリ」の施肥方法 土づくりとエコ農業
2. 高糖分飼料イネ「たちすずか」栽培技術マニュアル (独)農研機構近畿中国四国農業研究センター
3. 鶏ふんを利用した水稻の有機育苗方法 日本農業新聞

[畑・転換畑作部門]

1. 小麦新品種「ふくほのか」の特性と栽培 日本農業新聞

[果樹(全農岡山)部門]

1. 果樹(全農岡山)研究室における研究成果 その1 果樹(全農岡山)
2. 果樹(全農岡山)研究室における研究成果 その2 果樹(全農岡山)
3. ニューピオーネ・オーロラブラック共進会の審査結果について 果樹(全農岡山)
4. 次世代フルーツ「おかやま夢白桃」の栽培上の留意点ー果皮、果肉の着色対策を中心にー 果樹(全農岡山)
5. モモ 株元への部分マルチの敷設上の留意点について 果樹(全農岡山)
6. モモの春先の衰弱枯死について 果樹(全農岡山)
7. 話題の品種ーモモ「おかやま夢白桃」ー 果実日本
8. 「清水白桃」の果肉障害発生に及ぼす機能性果実袋被袋と樹冠下防水部分マルチ敷設処理の影響 果実日本
9. 果樹(全農岡山)園管理のポイント モモ 果実日本
10. 果樹(全農岡山)園管理のポイント モモ 果実日本
11. モモの初期生育を促進させる収穫後の栽培管理について 果樹(全農岡山)
12. 今年の栽培反省と次年度対策 モモ 果樹(全農岡山)
13. 今月の果樹(全農岡山)園管理 モモ 果樹(全農岡山)
14. 今月の果樹(全農岡山)園管理 モモ 果樹(全農岡山)
15. 今月の果樹(全農岡山)園管理 モモ 果樹(全農岡山)
16. モモの安定生産に向けた収穫後の技術対策について 日本農業新聞
17. ブドウ 着色・品質向上対策 果樹(全農岡山)
18. 今年の栽培反省と次年度対策 ーブドウー 果樹(全農岡山)
19. 次世代フルーツの生産目標を目指した栽培管理 ーシャインマスカットー 果樹(全農岡山)
20. 今年の栽培反省と次年度対策 ーブドウー 果樹(全農岡山)
21. ブドウ園土壌のモニタリング調査から 果樹(全農岡山)
22. 環境研究室における研究成果 果樹(全農岡山)
23. 病害防除の科学的根拠を創出するデータマイニング EBC研究会誌
24. ブドウ根頭がんしゅ病の生物防除技術の新展開 果実日本2
25. 岡山県におけるモモせん孔細菌病菌の優先種と遺伝的多様性について 植物防疫

26. ブドウ根頭がんしゅ病の拮抗細菌及び生物的防除法 JATAFFジャーナル
27. 2013年度アメリカ植物病理学会大会報告 日本植物病理学会ニュース
28. 岡山県におけるモモ病害の最近の発生状況と防除対策 果実日本
29. オンリーワンフロアブルを用いたイチジク株枯病の防除 果実日本
30. 温水によるブドウ白紋羽病の治療 日本農業新聞
31. 病虫研究室における研究成果 果樹(全農岡山)
32. 今月の果樹(全農岡山)園管理(病虫害) 果樹(全農岡山)
33. モモ果実赤点病の生態と防除対策 果樹(全農岡山)
34. 果樹(全農岡山)の白紋羽病に対する新しい防除技術 果樹(全農岡山)
35. ブドウ晩腐病における薬剤耐性菌の発生とその対策について 果樹(全農岡山)
36. カイガラムシ類の種類と防除上の留意点について 果樹(全農岡山)
37. 今年問題となった病虫害とその対策 果樹(全農岡山)

[野菜部門]

1. 病虫害の遺伝子診断 日本農業新聞
2. 促成なすにおける冬期増収技術の開発 ～昼加温と炭酸ガス施用の併用による促成なすの増収・品質向上効果～ グリーンレポート

[農業経営部門]

1. 「目的の共有化」を軸とした集落営農支援の研究 経営通信

発表論文等一覧

平成23年度

〔水田作部門〕

1. 鶏ふんを利用した水稻の有機育苗方法 岡山県農総セ農研研究報告
2. 日本土壌肥料学会第6部門水田土壌肥沃度 総説 土壌肥料誌

〔畑・転換畑作部門〕

3. 黒ダイズ品種「丹波黒」の優良系統「岡山系統1号」のセルトレイ育苗において健全苗を多数得るための管理方法 近畿中国四国農研

〔果樹部門〕

4. モモ‘白麗’の徒長枝誘引処理がその後の新梢成長及び翌年の果実品質に及ぼす影響 岡山県農総セ農研研究報告
5. フログルシン塩酸反応によるモモ‘清水白桃’の硬核期の判定 岡山県農総セ農研研究報告
6. モモ‘ゴールデンピーチ’のラジカル消去活性 岡山県農総セ農研研究報告
7. 毎日あるいは隔日に変夜温管理されたブドウ‘マスカット’の生育期、新梢及び果実成長の様相 岡山県農総セ農研研究報告
8. ブドウ‘シャインマスカット’成熟果実に発生した果皮表面の褐変症状 岡山県農総セ農研研究報告
9. Genetic diversity of *Rhizobium vitis* strains in Japan based on multilocus sequence analysis using the sequences of pyrG, recA and rpoD Journal of General Plant Pathology
10. 水温が根頭がんしゅ病菌の生存に及ぼす影響 関西病虫害研報
11. EBC研究会が目指す病害防除研究とは EBC研究会誌

〔野菜部門〕

12. カリフォルニアポピーとペチュニアをヒラズハナアザミウマの誘引植物として用いた雨除け栽培トマトでの白ぶくれ症防除 岡山県農総セ農研研究報告
13. 白ネギ苗への含リン酸液肥施用が黒ボク土での秋どり栽培における生育及び養分吸収に及ぼす影響 岡山県農総セ農研研究報告
14. ホルクロルフェニユロンによる雨除け栽培トマトの放射状裂果の発生抑制 近畿中国四国農研
15. フタスジヒメハムシ *Medythia nigrobilineata* (Motschulsky)(コチョウ目:ハムシ科)成虫の寄生蜂 *Centistes medythiae* Maetô et Nagai 及び *Stereocera okadai* Watanabe(ハチ目:コマユバチ科)の寄生率の季節的変動 応動昆
16. 栽培環境で異なる病徴を呈するトマトかいよう病菌の病原性について 関西病虫害研報8
17. ImmunoStrip™Cmmを利用したトマトかいよう病菌の簡易な分離方法 日植病報

〔農業経営部門〕

18. 商圏分析による農産物直売所の類型化とマーケティング戦略 近中四農研農業経営研究

平成24年度

[水田作部門]

1. 水稻の不耕起直播栽培における温室効果ガスの発生実態の解明と削除技術の開発 岡山県農総セ農研研究報告
2. 穂の握り締めによるイネ品種の脱粒性評価方法について 日本作物学会紀事
3. 岡山県南部水田土壌の化学性調査および水稻茎葉中のナトリウム含有率に基づくカリウム減肥指針の作成 日本土壌肥科学雑誌

[畑・転換畑作部門]

4. 岡山県における小麦の新しい奨励品種‘ふくほのか’の諸特性 岡山県農総セ農研研究報告
5. 黒大豆‘岡山系統1号’エダマメの成熟に伴う食味成分の変化と収穫適期 岡山県農総セ農研研究報告
6. 黒ダイズ品種「丹波黒」のセルトレイ育苗において種子の床置方向が出芽に及ぼす影響 日本作物学会紀事
7. PCR-RFLP identifies differences in *hrpZ* sequences to distinguish two genetic groups of *Pseudomonas syringae* pv. *syringae* strains from barley and wheat with bacterial black nod Journal of General Plant Pathology

[果樹部門]

8. モモの新品種‘さきがけはくとう’ 岡山県農総セ農研研究報告
9. New antagonistic strains of non-pathogenic *Agrobacterium vitis* to control grapevine crown gall Journal of Phytopathology
10. Biological control of apple crown gall by nonpathogenic *Rhizobium vitis* strain VAR03-1 Journal of General Plant Pathology
11. Biological control for grapevine crown gall In Grapevines: Varieties, Cultivation and Management (eds) P. V. Szabo, J. Shojania Nova Science Publishers, Hauppauge, NY, USA.
12. 非病原性 *Rhizobium vitis* ARK-1株によるブドウ根頭がんしゅ病の防除 土と微生物
13. 岡山県におけるモモせん孔細菌病菌の優占種と遺伝的多様性について 関西病虫害研報
14. 非病原性 *Rhizobium vitis* VAR03-1株のブドウ根内部における定着性について 近畿中国四国農研

[野菜部門]

15. 岡山県の夏秋トマトにおける土壌病害の発生実態 岡山県農総セ農研研究報告
16. ナミヒメハナカメムシのインセクタリープランツとしてのルドベキアの評価 応動昆
17. Suitable food for the mass rearing of *Wollastoniella rotunda* (Heteroptera: Anthocoridae), a predator of *Thrips palmi* (Thysanoptera: Thripidae). Japan Agricultural Research Quarterly
18. 施設有機栽培圃場における養分集積の実態と有機質資材施用量の削減が土壌化学性に及ぼす影響 日本土壌肥科学雑誌
19. Spatiotemporal distribution of tomato plants diseased with bacterial canker in naturally infected greenhouses Journal of General Plant Pathology

[花き部門]

20. 岡山県の露地栽培ギクにおける白さび病の発生 岡山県農総セ農研研究報告
21. 発蕾以降のジベレリン処理が8月出し夏秋小ギクの開花および切り花品質に及ぼす影響 園芸学研究

平成25年度

[水田作部門]

1. 水稻高温耐性品種‘にこまる’の登熟過程における品種特性 岡山県農総セ農研研究報告
2. 発酵粗飼料用としての水稻品種‘ヒノヒカリ’、‘アケボノ’の特性 岡山県農総セ農研研究報告
3. 水稻品種‘ヒノヒカリ’、‘アケボノ’の発酵粗飼料生産における実肥窒素の施用効果 岡山県農総セ農研研究報告
4. 粳穀牛ふん堆肥と窒素単肥の施用が発酵粗飼料用水稻の生育、収量及び土壌化学性に及ぼす影響 岡山県農総セ農研研究報告
5. 穂の握り締めによるイネ品種の脱粒性評価において調査株数の削減が評価結果に及ぼす影響 日本作物学会紀事
6. 飼料用稲栽培において土壌可給態窒素量と堆肥窒素肥効を考慮した施肥窒素量の決定方法 日本土壌肥料学雑誌
7. 水稻非作付け期間に施用した家畜ふん堆肥等有機物中の窒素の動態 日本土壌肥料学雑誌

[畑・転換畑作部門]

8. 黒ダイズ‘丹波黒’における種子の簡便な長期保存方法 岡山県農総セ農研研究報告

[果樹部門]

9. 岡山県における主要なモモ品種の花粉稔性及び果肉色の遺伝子型の推定 岡山県農総セ農研研究報告
10. 岡山県の現地生産園におけるブドウ‘紫苑’の生育及び果実生産の様相 岡山県農総セ農研研究報告
11. Biological control of crown gall on grapevine and root colonization by nonpathogenic *Rhizobium vitis* strain ARK-1 Microbes and Environments
12. 拮抗微生物を用いた生物防除(*Agrobacterium*属細菌)土壌微生物実験法 日本土壌微生物学会編
13. Biological control of bacterial spot on peach by nonpathogenic *Xanthomonas campestris* strains AZ98101 and AZ98106 Journal of General Plant Pathology

[野菜部門]

14. 四季成り性イチゴ系統‘Y’の育成 岡山県農総セ農研研究報告
15. 岡山県で発生したトリフルミゾールおよびアゾキシストロビンに対する多剤耐性ナスすすかび病菌と有効薬剤 近中四農研報
16. 岡山県の促成栽培ナスにおけるミナミキイロアザミウマ個体群に対する各種薬剤の殺虫効果 九病虫研会報

[花き部門]

17. ブルーレースフラワーの新品種‘岡山BLF1号’ 岡山県農総セ農研研究報告

[農業経営部門]

18. 岡山県産米に対する外食等業者及び米穀卸売業者のニーズの分析とその対応方向 岡山県農総セ農研研究報告

学会・研究会発表一覧

平成23年度

〔水田作部門〕

1. 水稻茎葉中のナトリウム含有率及び水田土壌の実態調査に基づくカリウム減肥指針の策定 土肥学会要旨集
2. 家畜ふんたい肥の肥料的効果の評価(第7報)判別分析及び反応速度論的手法による牛ふん堆肥の簡易窒素肥効推定 土肥学会要旨集
3. 家畜ふん堆肥の肥料的効果の評価(第8報)飼料用稲生産における堆肥の肥料的効果及び土壌可給態窒素を考慮した施肥技術の必要性 2011年度日本土壌肥料学会関西支部講演会要旨集
4. 飼料用稲栽培における堆肥施用の意義とその連用効果について 高糖分飼料イネ「たちすずか」普及連絡会・国産飼料プロ合同現地検討会(鳥取県)
5. 水田作におけるたい肥施用の基本と現場利用 平成23年度中央畜産技術研修会(家畜排せつ物処理)資料
6. 牛ふん堆肥を活用した窒素肥効モデルに基づく水稻の安定生産技術(シンポジウム:家畜ふん堆肥を活用した新たな地域ブランド技術の創出) 土肥誌講演要旨集

〔畑・転換畑作部門〕

7. 岡山県南部におけるコムギ品種「ふくほのか」の多収と子実蛋白質含有率向上のための播種時期、播種量並びに施肥方法 日作紀
8. 丹波黒種子の水感受性とセル苗育苗時の播種及び灌水方法について 日作紀
9. 肥効調節型被覆肥料を用いたビール大麦の全量基肥栽培 土肥学会要旨集
10. 肥効調節型被覆肥料を用いたビール大麦の全量基肥栽培 平成23年度中国四国地域マッチングフォーラム(ポスター発表)

〔果樹部門〕

11. モモ‘清水白桃’の収穫期と果肉障害発生に及ぼす成熟期における異常高温時のエテホン処理の影響 園芸学研究
12. 夏季の気象変動に対応したモモ品質安定技術の開発 平成23年度落葉果樹研究会(栽培)資料
13. 自発休眠覚醒モデルを用いたブドウ‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’加温栽培の省エネを図る保温開始早限の推定 園芸学研究
14. 果実発育第3期の高温が‘清水白桃’の収穫期の遅延及び果肉障害の発生に及ぼす影響 園芸学研究
15. Biological control of grapevine crown gall by nonpathogenic *Agrobacterium vitis* antagonistic strains isolated in Japan International Union of Microbiological Societies 2011 Congress P-BA
16. 我が国で分離された *Rhizobium vitis* の必須遺伝子群を用いたマルチローカス・シークエンス解析 日植病報
17. イチジク黒葉枯病菌 (*Neofusicoccum parvum*) による枝枯と果実腐敗 日植病報
18. テブコナゾール水和剤の株元灌注処理によるイチジク株枯病の防除 日植病報
19. 温水点滴処理による施設ブドウ白紋羽病防除の試み 日植病報

〔野菜部門〕

20. 電照の照度及び光質が丹波系黒大豆エダマメの生育に及ぼす影響 園学研10

21. プランター式養液土耕栽培における循環培養液の緩速ろ過処理がトマト青枯病の伝染に及ぼす影響
園芸学会中四国支部要旨
22. 害虫誘引植物を用いたトマト白ぶくれ症の抑制効果 第17回農作物病虫害防除フォーラム
23. リン酸蓄積土壌における施肥適正化試験 平成23年度近中四農研生産環境推進部会問題別研究会
24. 有機野菜栽培圃場における土壌管理の問題点 2011年度日本土壌肥料学会関西支部講演会要旨集
25. *Sclerotinia sclerotiorum* によるチコリー菌核病(新称)の発生 日植病報
26. 薬剤防除によって飛散するイチゴ炭疽病菌の2次伝染防止技術 日植病報
27. トマトかいよう病及び青枯病発病株の処分方法が隣接株への伝染に及ぼす影響 日植病報
[花き部門]
28. 岡山県特産花き(ブプレウラム、ラークスパー)におけるEOD反応について 平成23年度近中四農業試験研究推進会議花き推進部会問題別研究会
29. エゾリンドウにおける短茎早期開花茎発生機序と発生軽減方法の検討 園学研
30. 夏秋小ギクの花成における暗期中断反応の品種間差 園学研

平成24年度

[水田作部門]

1. 岡山県における作物生産の現状と課題 日本作物学会中国支部研究収録
2. 発酵粗飼料用水稲栽培における主食用品種の活用 日本作物学会中国支部研究収録
3. 高温耐性品種にこまの登熟期間における品種特性 日本作物学会中国支部研究収録
4. 県内水田土壌のリン酸含有率の実態及び土壌診断に基づく水稻のリン酸減肥試験 土肥学会要旨集
5. 家畜ふん堆肥の肥料的効果の評価(第9報)畑条件における牛ふん堆肥の簡易窒素肥効評価法
土肥学会要旨集
6. 家畜ふん堆肥の肥料的効果の評価(第10報)飼料イネ栽培における施肥設計支援システムの開発
土肥学会要旨集
7. 湛水培養中の土壌から80℃16時間水抽出で抽出される窒素の形態変化 2012年度日本土壌肥料学会
関西支部講演会要旨集
8. 作物栄養診断を目的とした蛍光X線分析装置の利用の可能性 2012年度日本土壌肥料学会関西支部
講演会要旨集

[畑・転換畑作部門]

9. 黒ダイズ品種「丹波黒」のセルトレイ育苗において種子の床置方向が出芽に及ぼす影響 日本作物学
会中国支部研究収録
10. 肥効調節型被覆肥料を用いたビール大麦の収量及び子実タンパク質含有率の改善 平成24年度近
中四農研推進会議生産環境推進部会土壌分科会問題別研究会

[果樹部門]

11. モモ‘清水白桃’の果肉障害発生に及ぼす機能性果実袋被袋と樹冠下防水マルチ敷設処理の影響
園芸学研究
12. 秋期の温暖化傾向がモモの翌年の生育に及ぼす影響およびその対策技術の確立 園芸学研究

13. モモ‘おかやま夢白桃’の幼果期の小果および着色果の発生要因 園芸学会中四国支部
14. 硫酸マグネシウム葉面散布によるピオーネのマグネシウム欠乏症抑制と休眠枝のデンプン蓄積効果
園芸学会中四国支部
15. New antagonistic strains of nonpathogenic *Rhizobium vitis* to control grapevine crown gall
Phytopathology
16. 岡山県で新たに発見されたブドウ根頭がんしゅ病に対する拮抗細菌について 日植病報
17. 非病原性 *Xanthomonas* 属細菌を用いたモモせん孔細菌病の生物防除 日植病報
18. ブドウ根頭がんしゅ病の拮抗細菌及び生物的防除に関する研究 平成24年度若手農林水産研究者
表彰 受賞者の業績概要
19. 土壌細菌ブドウ根頭がんしゅ病の生物的防除法の開発 第11回日本農学進歩賞受賞者講演要旨
集
20. QoI剤耐性ブドウ褐斑病菌の発生圃場における各種薬剤及び体系防除の褐斑病に対する防除効果
日植病報
21. ブドウ白腐病に対する有効薬剤の選抜 日植病報
22. 岡山県における薬剤抵抗性マネジメント～ブドウ褐斑病の事例を中心として～ 日本植物防疫協
会シンポジウム講演要旨集
23. 岡山県における晩腐病研究の状況と防除対策について ブドウ晩腐病ワークショップ講演要旨集
24. カルタップ水溶剤の散布回数及びブドウ樹の過去の被害状況がクビアカスカシバ幼虫の防除効果に
及ぼす影響 第57回日本応用動物昆虫学会講演要旨集
25. 岡山県におけるブドウのクビアカスカシバの発生生態の解明と防除対策の確立 平成24年度近畿中
国四国果樹研究会講演要旨集
[野菜部門]
26. ナスの促成栽培施設における景観植物スカエボラの混植による天敵温存効果の検証 第22回天敵
利用研究会
27. 景観植物を利用した植生管理技術による害虫防除の取り組み 第5回有機農業試験研究交流会
28. 丹波黒大豆エダマメの電照抑制栽培における播種期が収量および品質に及ぼす影響 園芸学会中
四国支部要旨
29. 景観植物を利用した植生管理による害虫管理の可能性 平成24年度近中四農研推進会議生産環
境推進部会病虫害分科会問題別研究会
30. 塩類集積土壌における土壌水分がコマツナの発芽率に及ぼす影響 土肥学会要旨集
31. Epidemiological study of tomato bacterial canker in greenhouses in Japan The 2nd Korea-Japan Joint
Symposium
32. トマトかいよう病及び青枯病発病株の処分方法が隣接株への伝染に及ぼす影響 日植病報
33. 岡山県内で採取したナスすすかび病菌のDMI及びストロビルリン系薬剤に対する感受性 日植病報
34. トマトかいよう病及び青枯病発病株の抜取跡への熱水による局所土壌消毒の効果について 日植病
報
35. 大型トンネルと電熱温床線による加温処理がダイコンの肥大と内部褐変症程度におよぼす影響 園
芸学研究
[花き部門]
36. 不織布を用いた簡易被覆によるエゾリンドウの開花促進 園芸学会中四国支部

37. 同一親株から得た挿し穂を用いた小ギク夏秋需要期出荷の可能性 園芸学研究
38. エゾリンドウ根によるリンドウ幼植物の生育抑制と活性炭添加による軽減効果 園芸学会中四国支部
39. ブルーレースフラワーの雄ずい、花卉の離脱抑制法の検討 園芸学研究
40. 気象条件の異なる地域における EOD-Heating 処理がトルコギキョウの生育、開花に及ぼす影響 園芸学研究

平成25年度

[水田作部門]

1. 発酵粗飼料用としての水稻「ヒノヒカリ」の収量及び耐倒伏性 日本作物学会紀事
2. 飼料米生産における「ヒノヒカリ」の立毛乾燥に適した収穫時期 日本作物学会中国支部
3. 岡山県の水稲栽培におけるリン酸減肥指針の作成 土壤肥料学会
4. 水稻作の新たなカリウム減肥指針 水稻作における施肥コスト低減に向けた技術普及研究会
5. 岡山県における家畜ふん堆肥の肥効評価法の開発と実証 関西土壤肥料協議会講演会
6. 鶏糞の施用時期を考慮した施肥設計方法の開発 土壤肥料学会
7. ビール大麦「おうみゆたか」の全量基肥栽培に適した肥料の配合割合 土壤肥料学会
8. 「たちすずか」等飼料イネ栽培における施肥管理上の留意点 土壤肥料学会関西支部

[畑・転換畑作部門]

9. 岡山県における特産作物研究の現状と課題 日本作物学会中国支部
10. 黒ダイズ丹波黒の出芽率を高めるヘソ横向き播種の効果は安定して発現する 日本作物学会中国支部
11. 黒ダイズ丹波黒の優良系統「岡山1号」における種子の簡便な長期保存方法 日本作物学会中国支部
12. 黒ダイズ丹波黒の出芽率を高めるヘソ横向き播種の効果は安定して発現するか? 日本作物学会紀事

[果樹部門]

13. 岡山県における「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立 近中四地域果樹研究会
14. ブドウ「シャインマスカット」の果粒軟化後に発生した成熟遅延粒の特徴 園芸学研究
15. 岡山県における「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立 落葉果樹研究会
16. モモ「清水白桃」若木の生育に及ぼす「ひだ国府紅しだれ」台木の影響 園芸学会中四国支部
17. 良質な科学的根拠創出のための現地研究(On-farm research)について 日本植物病理学会九州部会
18. Biological control of crown gall on grape and root colonization by nonpathogenic *Agrobacterium* (*Rhizobium*) *vitis* strain ARK-1 Phytopathology
19. メタアナリシスを用いたブドウ根頭がんしゅ病の生物防除試験の評価 日本土壤微生物学会
20. モモせん孔細菌病の発病程度に関するコホート内症例対照研究 日植病報
21. モモせん孔細菌病の発病程度に影響を与える要因のロジスティック回帰 日植病報
22. ブドウ根頭がんしゅ病の新しい生物防除技術の開発 日本ブドウ・ワイン学会
23. 施設ブドウ白紋羽病に対する温水点滴処理の治療効果について 日植病報
24. 岡山県内のブドウ晩腐病菌のアゾキシストロビンに対する感受性 日植病報
25. ブドウ白紋羽病罹病樹の温水治療 果樹白紋羽病 温水治療ワークショップ

[野菜部門]

26. ホルクロルフェニロンによる雨除け栽培トマトの放射状裂果の発生抑制 園芸学会中四国支部
27. ホルクロルフェニロンの果房散布時期および濃度が雨除け栽培トマトの放射状裂果の発生に及ぼす影響 園芸学研究
28. 黒ボク土での白ネギ秋どり栽培におけるリン酸施用量の削減および肥効調節型肥料による追肥回数の削減 日本土壤肥料学会
29. マイナー作物の登録促進について 農薬環境動態研究会
30. トマト青枯病汚染圃場への熱水による局所土壤消毒範囲と土壤伝染抑制効果について 日植病報
31. 土着天敵タバコカスミカメの現地におけるゴマを用いた増殖法の把握 中国四国病虫害防除所職員等研修会
32. 促成栽培ナスで発生するミナミキイロアザミウマに対するスワルスキーカブリダニとタバコカスミカメを用いた防除効果の検討 日本応用動物昆虫学会大会
33. トマトかいよう病の疫学的解析による伝染源の解明とその根拠に基づいた防除 日本学術会議公開シンポジウム

[花き部門]

34. 同一親株から得た挿し穂および暗期中断処理を用いた小ギクの夏秋需要期連続出荷 園芸学会中四国支部
35. 再電照が夏秋小ギクの花蕾数に及ぼす影響 園芸学研究

技術普及のための研究会・研修会などへの対応

平成23年度

No	研究会名等	主催	対応内容	職員数
1	果樹研究会温室ぶどう部会、女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
2	果樹研究会ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
3	勝英地域大型稲作研究会研修会	勝英地域大型稲作研究会	米の消費者ニーズ、直売について(講演)	1
4	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
5	果樹研究会(岡山市古都)	岡山普及	ピオーネの樹勢強化 マグネシウム葉面散布	1
6	岡山地方施設ぶどう研究会	岡山普及	試験研究成果の説明、研究会への助言	4
7	つやま地域リンドウ研究会研修会	つやま地域リンドウ研究会	岡山県オリジナルリンドウの育種について	1
8	岡山地方大型米麦研究会研修会	岡山地方大型米麦研究会	米の消費者ニーズ、直売について(講演)	1
9	果樹研究会ピオーネ加温分科会	果研	現地研究会への出席と助言	1
10	調査研究広域課題に係るプロジェクト会議	普及推進課	出席と助言	1
11	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
12	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
13	専門技術高度化研修(野菜)	普及推進課	トマト葉かび病、ナスのミナミキイロアザミウマ防除対策	2
14	蒜山地域の花弁研修	真庭普及	ソリダコかん水管理による収量および品質向上対策	1
15	リンドウ連絡会議	農産課	おかやまオリジナルリンドウの品種育成	1
16	普及指導員基本研修	普及推進課	病害虫総論	1
17	果樹研究会ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
18	岡山県統一リンドウ目揃え会	全農岡山	現地目揃え会への出席と助言	1
19	施設ナス作業防除暦検討会	全農岡山	出席と助言	1
20	専門技術高度化研修花き	普及推進課	高冷地の研究課題について	1
21	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
22	うまいくだもの共進会(マスカット)	うまいくだものづくり推進本部、岡山市	共進会への出席と審査	6
23	岡山地域キク研修会	岡山普及	農業研究所のキクに関する試験研究(講演)	1
24	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
25	岡山市温室メロン品評会	岡山市	品評会への出席と審査	2
26	調査研究広域課題に係るプロジェクト会議	普及推進課	高冷地の取り組み	1
27	広域調査研究担当者会議(施設ナスアザミウマ対策)	普及推進課	現地検討会への出席、研究情報提供	1
28	JAまにわダイコン部会協議会役員会	蒜山地域園芸振興協議会	春ダイコンの有望品種の紹介(講演)	2
29	果樹苗木生産組合研修会	果樹苗木生産販売組合	果樹根頭がんしゅ病防止への最新技術	1
30	施設ナス講習会	JA岡山	試験研究成果報告	1
31	全農防除暦検討会	全農岡山	果樹防除暦の検討	1
32	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
33	しゃくやくの組織培養研修会	高梁普及	講演と実技指導	1
34	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
35	果樹苗木組合巡回	果樹苗木組合	出席と助言	1
36	果樹研究会ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
37	調査研究広域課題に係るプロジェクト会議	普及推進課	高冷地の研究内容の紹介	1
38	美作局管内普指センター野菜自主研修	津山普及	高冷地の研究内容の紹介	1
39	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
40	うまいくだもの共進会(マスカット)	うまいくだものづくり推進本部、岡山市	共進会への出席と審査	6
41	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
42	勝英地域アスパラガス産地土壌調査結果報告会	JA勝英	調査結果の報告	1
43	平成23年度中央技術畜産研究会	農林水産省生産局畜産部	水田作における堆肥施用の基本と現場利用	1
44	果樹研究会なし部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	1
45	おかやま有機無農薬農業現地研修会	農業開発研究所	有機質肥料を用いた水稻栽培技術	2
46	農薬管理指導員認定研修会	農産課	農薬概論、病害虫・雑草防除対策	1
47	岡山市温室ぶどう共進会(コールマン)	岡山市	共進会への出席と審査	2
48	リンドウ推進大会	花卉生産協会	オリジナルリンドウの品種育成について	2
49	果樹研究会ぶどう部会	果研	研究会への出席と助言	1
50	笠岡地域いちご研究会	井笠普及	イチゴ新品種の特性と花芽文化促進技術(講演)	2
51	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	3
52	東備農業技術連絡会議研修会	東備農業技術連絡会議	温暖化に対応した水稻品種と栽培技術(講演)	2
53	岡山地域黄ニラ産地土壌調査結果報告会	JA岡山	調査結果の報告	1
54	ヤマブドウ栽培反省会	蒜山地域園芸振興組合	出席と助言	1
55	勝山クレマチス生産部会反省会	真庭普及	現地反省会への出席と助言	1
56	果樹担当者会議	農産課	ストロビルリン系薬剤耐性ブドウと病菌の発生	1
57	岡山市いちご共進会	岡山市	共進会への出席と審査	1

58	調査研究広域課題に係るプロジェクト会議	普及推進課	夏秋トマト裂果軽減対策の研究結果について	1
59	広域調査研究担当者会議(施設ナサザミ対策)	普及推進課	現地検討会への出席、研究情報提供	2
60	JA岡山西大寺ぶどう部会古都支部	JA岡山	ブドウの品質向上対策	1
61	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
62	岡山農業技術連絡会議研修会	岡山農業技術連絡会議	水稻の高温障害対策について(講演)	2
63	施設ナス講習会	JA岡山	施設ナスの病虫害対策	2
64	農業管理指導員認定研修会	農産課	農業概論、病害虫・雑草防除対策	1
65	倉敷地方いちご共進会	倉敷市	共進会への出席と審査	1
66	津山地域ニュービオーネ推進大会	津山普及	ブドウの病害対策(講演)	1
67	広域調査研究担当者会議(施設ナサザミ対策)	普及推進課	現地検討会への出席、研究情報提供	1
68	クレマチス栽培講習会	真庭普及	現地講習会への出席と助言	1
69	岡山地方施設ぶどう研究会	岡山普及	ブドウの休眠とDVI	1
70	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	3
71	果樹研究会ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
72	おいCベリー現地検討会	JA岡山	おいCベリーの特性と管理(講演)	1
73	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1

108

平成24年度

No	研究会名等		対応内容	職員数
1	次世代フルーツ(シャインマスカット)研修会	うまいくだものづくり推進本部	研修会への出席と助言	2
2	果樹研究会ピオーネ加温分科会	果研	現地研究会への出席と助言	1
3	藤田採種組合	JA岡山	水稻の採種技術(講演)	2
4	果樹研究会ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	4
5	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
6	岡山地方施設ぶどう研究会	岡山普及	農業研究所で開催、ブドウ試験研究成果	4
7	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	1
8	岡山地方大型米麦研究会研修会	岡山地方大型米麦研究会	岡山米の消費者ニーズについて(講演)	1
9	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
10	果樹研究会ピオーネ加温分科会	果研	現地研究会への出席と助言	1
11	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	3
12	岡山植物病理セミナー	岡山植物病理セミナー	ブドウ根頭がんしゅ病の防除	1
13	ニンニク担当者会議	JAまにわ	高冷地のニンニク関連研究の紹介	2
14	夏秋ナス現地研修会	全農岡山	研修会への出席と助言	1
15	農業安全指導者講習会	農業安全指導者協議会	水稻難防除雑草の生態と防除法(講演)	1
16	リンドウ連絡会議	農産課	岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系の確立と栽培技術の改善	2
17	広域調査研究担当者会議(施設ナサザミ対策)	普及推進課	現地検討会への出席、研究情報提供	1
18	果樹研究会ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
19	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
20	夏期果樹種苗研修会	(社)日本果樹種苗協会	果樹根頭がんしゅ病防除技術の研究最前線	1
21	ピオーネ生産部会成羽支部視察・研修会	JAびほくピオーネ部会	ピオーネの施肥・肥培管理について(講演)	1
22	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	1
23	夏秋トマト情報交換会	普及推進課	自動開閉式日射制御装置について	2
24	植調夏作現地検討会	植調近畿中国四国支部	岡山県における水稻の乾田直播栽培について(講演)	1
25	岡山地域飼料イネWCS生産利用連絡会	岡山WCS生産利用連絡会	WCS用水稻の品種・栽培法について(講演)	1
26	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
27	うまいくだもの共進会(モモ)	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	6
28	施設ナス講習会	JA岡山	施設ナスの病虫害対策	2
29	うまいくだもの共進会(モモ)	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	6
30	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	4
31	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
32	備中県民局管内花卉担当者会議	備中農畜産物生産課	高冷地の研究内容	1
33	果樹研究会ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
34	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
35	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	1
36	岡山市温室ぶどう(マスカット)共進会	岡山市	共進会への出席と審査	2
37	果樹研究会なし部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
38	果樹研究会もも部会	果研	研究会への出席と助言	2
39	連島ゴボウ岐根対策実証試験	倉敷普及	参加と助言	1
40	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
41	新技術セミナー	農産課	新技術(試験研究主要成果)	2
42	りんどう推進大会	岡山県花卉生産協会	おかやま夢リンドウ中生のジベレリン処理	1
43	飼料自給率向上研修会	美作県民局	「たちすずか」の栽培法について(講演)	1
44	夏秋トマト推進研修会	元気ベジタブル推進本部	研修会への出席と助言	3
45	専門技術高度化研修(花き)	普及推進課	主要花きに発生するウイルス病及び伝染経路	1
46	果樹研究会なし部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	3
47	果樹研究会ピオーネ加温分科会	果研	研究会への出席と助言	1
48	岡山県後楽園菊花大会	岡山県	審査会への出席と審査	1
49	農業管理指導員認定研修会	農産課	農業概論、病害虫・雑草防除対策	1

50	イネもみ枯細菌病対策会議	農産課	イネもみ枯細菌病の生態と防除対策について	1
51	美作地域集落営農リーダー研修会	美作県民局	集落営農の多角化について(講演)	1
52	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	研究会への出席と助言	1
53	近中四農研推進会議 問題別研究会	(独)近中四農研	肥効調節型被覆肥料を用いたビール大麦の収量及び子実タンパク質含有率の改善(講演)	1
54	JAまにわダイコン部会協議会役員会	蒜山地域園芸振興協議会	ダイコン品種比較試験の経過報告	2
55	果樹研究会ぶどう部会	果研	研究会への出席と助言	1
56	岡山市温室ぶどう共進会(コールマン)	岡山市	共進会への出席と審査	2
57	小ギク生産情報交換会	(独)花き研究所	夏秋需要期小ギクの試験研究(講演)	1
58	平成24年度土づくり研修会	和歌山県肥料協会	土壌診断によるモモ園土壌の問題点と土づくり対策(講演)	1
59	土づくりシンポジウム	土壌肥料協会	園地診断から明らかになった高糖度モモ園(講演)	1
60	リーキ出荷企画会議	全農岡山	リーキの土寄せ方法について	2
61	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
62	岡山地方大型米麦研究会研修会	岡山地方大型米麦研究会	消費ニーズに対応したコメの生産販売(講演)	1
63	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
64	花卉担当普及指導員会議	普及推進課	高冷地の研究内容	1
65	岡山市いちご共進会	岡山市	共進会への出席と審査	1
66	岡山県花き共進会	全農岡山	共進会への出席と審査	3
67	広域調査研究担当者会議(施設ナスアザミウマ対策)	普及推進課	現地検討会への出席、研究情報提供	1
68	倉敷地方いちご共進会	倉敷市	共進会への出席と審査	1
69	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
70	岡山地域キク研修会	岡山普及	小ギクの夏秋需要期連続出荷(講演)	1
71	農薬管理指導員認定研修会	農産課	農薬概論、病害虫・雑草防除対策	1
72	農薬安全指導者講習会	農薬安全指導者協議会	殺菌剤耐性菌、殺虫剤抵抗性害虫に関する現状と対策	1
73	北房認定農業者協議会研修会	北房認定農業者協議会	米の消費者ニーズ、経営計画の作成方法について(講演)	2
74	果樹研究会かんきつ部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
75	施設ナス研修会	JA岡山	備南地域促成ナス産地の実態調査(講演)	2
76	おかやま黒まめ品質向上研修会	農産課	黒大豆の品質向上について(講演)	2
77	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
78	おかやま有機無農薬農業現地研修会	農業開発研究所	有機栽培ハウスにおける発芽障害とその対策(講演)	2
79	果樹研究会ピオーネ加温分科会	果研	現地研究会への出席と助言	2
80	新見市技連野菜花き部会先進事例調査	新見市技連	試験結果の紹介と現在の研究内容	2
81	兵庫県太子町	太子町	温暖化に対応した水稲品種と栽培技術(講演)	1
82	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1

132

平成25年度

No	研究会名等		対応内容	職員数
1	果樹研究会ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
2	勝英地域大型稲作研究会研修会	勝英地域大型稲作研究会	消費ニーズに対応したコメの生産販売(講演)	1
3	りんどう栽培研修会	全農岡山	研修会への出席と助言	1
4	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	1
5	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
6	果樹研究会ピオーネ加温分科会	果研	現地研究会への出席と助言	1
7	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
8	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	3
9	作州黒生産者大会講習会	JA勝英作州黒部会	試験成果紹介	1
10	専門技術高度化研修(野菜)	普及推進課	研究成果及び計画	1
11	りんどう技術研修会	岡山県花卉生産協会	高冷地の研究内容紹介	2
12	果樹研究会ぶどう部会	果研	出席と助言	2
13	天敵利用研究会	(山陽薬品)	アザミウマ、アブラムシの生態と防除	1
14	果樹研究会ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
15	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
16	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
17	うまいくだもの共進会(ピオーネ、オーロラ)	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	6
18	岡山市温室メロン品評会	岡山市	品評会への出席と審査	1
19	ヤングライスネットワークミーティング	ヤングライスネットワーク	水稲の疎植栽培、構音障害対策について(講演)他	4
20	岡山地域飼料イネWCS生産利用連絡会	岡山WCS生産利用連絡会	WCS用水稲の品種・栽培法について(講演)	1
21	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
22	岡山県花き共進会	全農岡山	共進会への出席と審査	3
23	施設ナス講習会	JA岡山	施設ナスの病虫害対策	1
24	全農防除暦検討会	全農岡山	果樹防除暦の検討	1
25	夏秋トマト担当者会議	普及推進課	高冷地現地試験圃場におけるこれまでの生育経過	2
26	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
27	岡山農業技術連絡会議研修会	岡山農業技術連絡会	温暖化に対応した水稲品種と栽培技術(講演)	1
28	果樹研究会ぶどう部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	3
29	岡山県植物防疫協会現地研修会	岡山県植物防疫協会	施設ナス栽培における天敵利用	1
30	うまいくだもの共進会(ピオーネ、オーロラ)	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	6
31	果樹苗木組合巡回	果樹苗木組合	出席と助言	1
32	果樹研究会なし部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
33	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
34	加温ハウスイチジク土壌病害虫対策	JA倉敷かさや	イチジク株枯病発病跡地の消毒効果	1
35	うまいくだもの共進会(ピオーネ、オーロラ)	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	6
36	ブドウ白紋羽病現地検討	岡山市温室ぶどう研究会	ブドウ白紋羽病発病跡地の消毒効果	1
37	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
38	果樹研究会もも部会	果研	研究会への出席と助言	2
39	作物担当者自主研修	岡山普及	水稲採種圃病害対策	1

40	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	現地研究会への出席と助言	1
41	りんどう推進大会	花卉生産協会共催	リンドウの短茎開花とコンテナ栽培について	2
42	土づくり研究会	全農岡山	飼料稲たちすずかの栽培と肥培管理(講演)	1
43	果樹研究会なし部会	果研	農業研究所で開催、研究会への出席と助言	2
44	次世代フルーツ「紫苑」研修会	うまいくだものづくり推進本部	ブドウ「紫苑」栽培の留意点を講演	1
45	農薬管理指導員認定研修会	農産課	農薬概論、病害虫・雑草防除対策	1
46	勝英地域ニュービオーネ推進大会	JA勝英	ブドウの病害と防除	1
47	美作地域集落営農リーダー研修会	美作県民局	集落営農の総会資料の作り方(講演)	1
48	果樹白紋羽病温水処理ワークショップ	(独)果樹研究所	ブドウ白紋羽病罹病樹の温水治療	1
49	おかやま有機無農薬農業現地研修会	農業開発研究所	有機栽培における養分が集積しにくい施肥管理(講演)	3
50	果樹研究会ぶどう部会	果研	研究会への出席と助言	2
51	岡山肥料農薬推進協議会研修会	岡山肥料農薬推進協議会	最近の病害虫の発生と防除	1
52	第9回施肥技術講習会	全国肥料商連合会	岡山県施肥管理システムを活用した施肥改善(講演)	1
53	果樹研究会温室ぶどう部会	果研	研究会への出席と助言	2
54	専門技術高度化研修(果樹)	普及推進課	白紋羽病温水治療、モモ果実赤点病・ブドウ晩腐病防除	1
55	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	3
56	「おかやま夢白桃」栽培推進大会	浅口市	「おかやま夢白桃」の品種特性と技術対策	1
57	倉敷地方施設いちご研究会	倉敷普及	いちごの新品種(講演)	2
58	果樹研究会温室ぶどう女性部会	果研	研究会への出席と助言	1
59	おかやま元気ベジタブル振興大会	全農岡山	促成ナスの増収・品質向上技術(講演)	2
60	岡山市いちご共進会	岡山市	共進会への出席と審査	1
61	ヤングライスネットワークミーティング	ヤングライスネットワーク	いもち病QoI剤耐性菌	1
62	農学部果実生産学学生への講義	岡山大学	岡山県の果樹栽培を支える取り組みに関して講義	1
63	倉敷地方いちご共進会	倉敷市	共進会への出席と審査	1
64	JAグループ岡山肥料農薬推進協議会研修会	JA岡山くみあい肥料農薬推進協議会	農業研究所における研究内容の紹介(講演)	5
65	果樹研究会なし部会	果研	現地研究会への出席と助言	2
66	農薬管理指導員認定研修会	農産課	農薬概論、病害虫・雑草防除対策	1
67	農薬安全指導者講習会	農薬安全指導者協議会	トビイロウンカの生態と防除について	1
68	果樹研究会もも部会	果研	現地研究会への出席と助言	3
69	スイートピー生産振興研修会	全農岡山	農業研究所のスイートピーの試験研究(講演)	1
70	津山地域大型稲作研究会研修会	津山地域大型稲作研究会	消費ニーズに対応したコメの生産販売(講演)	1
71	ブドウ白紋羽病現地検討	備前県民局	ブドウ白紋羽病発病跡地の消毒効果	1
72	施設ナス講習会	JA岡山	施設ナスの病虫害対策	2
73	倉敷地方稲作研究会研修会	倉敷地方稲作研究会	鶏ふん・緑肥による水稻施肥低コスト栽培(講演)	1
74	果樹研究会ぶどう部会、温室ぶどう部会	果研	現地研究会への出席と助言	3

受賞・表彰

外部受賞・表彰

年 度	受賞・表彰名	内 容
平成23年	日本ペドロジー学会 2009-2010年度論文賞	北東北地方に代表的な水田土壌の粘土鉱物組成
	全国農業関係試験研究場所長会研究功労者表彰	窒素肥効予測技術の開発と土壌施肥管理システムの構築
平成24年	第8回若手農林水産研究者表彰	ブドウ根頭がんしゅ病の拮抗細菌及び生物的防除に関する研究
	第11回日本農学進歩賞	土壌細菌ブドウ根頭がんしゅ病の生物的防除法の開発
	日本土壌肥料学会鳥取大会ポスター賞	飼料イネ栽培における施肥設計支援システムの開発 家畜ふん堆肥の肥料的効果の評価（第10報）

職員表彰

年 度	表彰名	内 容
平成23年	知事表彰	農作物の病虫害防除に関する試験研究及び病虫害発生予察業務と確立した技術の普及指導
平成24年	農林水産部長表彰	特産作物の品種育成や栽培法の確立と普及
平成25年	農林水産部長表彰	次世代フルーツ「シャインマスカット」「紫苑」の技術開発・普及

農業研究所における共同研究実施課題

平成26年4月現在

岡山県農業研究所の担当研究課題名	事業名等	研究期間	研究室	共同研究機関
土着天敵タバコカミカメの持続的密度管理によるウイルス媒介虫防除技術の開発・実証	農林水産省：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	H24～26	野菜・花 病虫	中央農業総合研究センター他
西日本のモモ生産安定のための 果肉障害対策技術の開発	農林水産省：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	H25～27	果樹	岡山大学、果樹研究所他
温暖化に対応した夏秋需要期キク安定開花調節技術の開発	農林水産省：委託プロジェクト研究	H22～26	野菜・花	花き研究所他
温暖化に対応したダイコン新品種の開発	農林水産省：農林水産知的財産戦略総合推進事業	H22～26	高冷地	種苗会社(非公開)
周年安定生産を可能とする花き栽培技術の実証研究	農林水産省：食料生産地域再生の先端技術展開事業	H25～29	野菜・花	花き研究所他
農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業	農林水産省：生産環境総合対策事業	H25～32	環境	農業環境技術研究所他
ブドウ根頭がんしゅ病新規拮抗細菌の環境中の動態と防除機構の解明	文部科学省：科学研究費助成事業（若手研究B）	H25～27	病虫	研究協力者：生物科学研究所、岡山大学
木質バイオマスを素材とした樹木の凍害防止資材の開発	農総セ連携事業促進費	H25～27	果樹 高冷地	森林研究所
味覚センサを用いた県産野菜の味の視覚化手法の開発	農総セ連携事業促進費	H25～27	環境 野菜・花 高冷地	味香り戦略研究所
モモの育種効率を向上させるDNAマーカーによる選抜技術の確立	農総セ連携事業促進費	H26～28	果樹	生物科学研究所
リンドウの連作障害を回避する木質栽培床の開発	農総セ連携事業促進費	H26～29	高冷地	森林研究所
規格や用途に適応したペレット化肥料等の開発	農総セ連携事業促進費	H26～29	環境	畜産研究所
機能性果実袋によるナシの果肉障害対策試験	農総セ連携事業促進費	H26～27	果樹	テイカ(株)
軟弱野菜における施肥による食味変化の数値化手法の開発	農総セ連携事業促進費	H26～27	環境	(株)インテリジェントセンサーテクノロジー
堆肥と化成肥料を混合した新規肥料設計技術の開発	農業研究所研究費	H25～27	環境	畜産研究所
ブドウ根頭がんしゅ病拮抗細菌の製剤化に伴う圃場効果試験	農業研究所研究費	H23～26	病虫	クミアイ化学
育成系統評価にかかる栽培、調査業務（イチゴ）	農業研究所研究費	H23～継続	野菜・花	山口県農林総合技術センター他

 県単独事業

視察受入状況

平成23年度

No	視察団体	人数	視察内容	対応研究室
1	県穀物改良協会	20	水稻の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
2	東備農業技術者連絡会議	25	温暖化に対応した水稻品種、栽培法	作物・経営
3	鏡野採種組合	22	水稻の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
4	大分県日田市	25	岡山県における水稻の乾田直播栽培	作物・経営
5	津山地域大型稲作研究会	20	WCS用水稻の品種・栽培法	作物・経営
6	施設ブドウ研究会	15	試験研究成果、ブドウ視察研修	果樹、病虫
7	まる草出荷組合	25	ブドウ品種の特性、房づくり技術研修	果樹
8	玉島北園芸協会ぶどう部会	20	ブドウ栽培方法	果樹
9	愛媛県中央伊台地区ブドウ農家	25	ブドウの安定生産と品質向上技術	果樹
10	JA岡山東・赤坂温室	15	シャインマスカットの栽培技術	果樹
11	島根県金城町ぶどう生産協議会	17	ピオーネ摘粒技術、圃場視察研修	果樹
12	果樹共済(もも)現地研修会	30	モモの実測調査研修	果樹
13	宮崎県小林市果振協議会	30	シャインマスカットの栽培管理	果樹
14	JAまにわ久世ぶどう生産組合	30	ピオーネの高品質安定生産技術研修	果樹
15	全農山梨	10	シャインマスカット栽培管理	果樹
16	岡山大学フィールド基礎実習	22	モモ、ブドウ視察研修	果樹
17	山形県くしびき西荒屋観光果樹村	8	大粒種ぶどうの栽培技術	果樹
18	愛媛たいき農協	25	シャインマスカット栽培管理	果樹
19	JAまにわ勝山ぶどう部会	30	ピオーネの高品質安定生産技術研修	果樹
20	JAまにわ生産者	20	ピオーネの高品質安定生産技術研修	果樹
21	長崎地域農業振興協議会	8	シャインマスカットの生産技術	果樹
22	和歌山県農業大学校	20	モモ、ブドウの安定生産と品質向上	果樹
23	島根県果樹技術者会議	20	ブドウ研究の現状と課題	果樹
24	JA岡山東ブドウ生産協議会	118	次世代フルーツ(ブドウ)の栽培技術	果樹
25	果樹研究会(ぶどう部会)	30	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹、病虫
26	徳島県・阿波ブドウ部会	20	ブドウ栽培管理	果樹
27	福岡県・八女ブドウ部会	15	シャインマスカット栽培技術	果樹
28	JA大阪南太子ぶどう組合	15	ピオーネ、シャインマスカット栽培技術	果樹
29	園芸学会果樹コース	38	モモ、ブドウ圃場視察研修	果樹
30	野菜ソムリエ・江草他	4	「紫苑」、「新高」圃場見学	果樹
31	温室農協・長野分会	8	「紫苑」の安定生産技術	果樹
32	勝央町ブドウ部会	18	シャインマスカット栽培方法	果樹
33	果樹研究会(なし部会)	15	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹、病虫
34	福岡農試・四宮	1	ブドウの温暖化対策の研究	果樹
35	中国訪問団	7	モモ、ブドウ圃場見学	果樹
36	果樹研究会(ぶどう部会)	30	ブドウ視察研修、栽培技術	果樹
37	JA倉敷かさやイチゴ研究会	8	イチゴ新品種	野菜・花
38	美星町花き栽培研究会	10	花きの研究概要	野菜・花
39	岡山地域切花研究会	10	花きの栽培技術	野菜・花
40	倉敷地域イチゴ生産者	5	イチゴ新品種	野菜・花
41	山梨農試視察対応	1	土壌施肥管理システム等	環境
42	山梨農試視察対応	1	本県における土壌肥料的研究	環境
43	津山大型稲作研究会	14	飼料稲栽培における低コスト施肥	環境
44	高梁市備中町三光園トマト生産者	11	夏秋トマトの研究内容	高冷地
45	岡山県農業大学校 野菜コース	33	高冷地研究室の野菜研究内容	高冷地
46	岡山県農業大学校 花きコース	7	高冷地研究室の花き研究内容	高冷地
47	鳥取いなば農業協同組合	25	白ネギ試験について	高冷地
48	西日本ブロック農業大学校野菜部門担当者	50	高冷地研究室の野菜研究内容	高冷地
49	美作局管内農業普及指導センター野菜担当者	12	トマトの裂果抑制に用いる自動開閉装置	高冷地
50	広島県北部農業技術指導所	3	夏秋イチゴ安定生産技術	高冷地
51	新見市農林業振興技術者連絡協議会	7	ニンニク、リンドウの栽培試験	高冷地
	合 計	998		

平成24年度

No	視察団体	人数	視察内容	対応研究室
1	JICA	30	水稻の乾田直播栽培	作物・経営
2	植調近畿中国四国支部	100	水稻用除草剤試験の現地研修	作物・経営
3	作物学会中国支部	30	岡山農研における水田夏作の試験研究	作物・経営
4	県穀物改良協会	18	水稻の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
5	鳥取県農業試験場	4	水稻の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
6	東備地域がんばる稲作農家	50	水稻の湛水直播栽培	作物・経営
7	JA岡山	2	温暖化に対応した水稻品種、栽培技術	作物・経営
8	兵庫県原種農場	3	水稻の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
9	果樹研究会(ぶどう部会)	48	ブドウ視察研修、栽培技術	果樹、病虫
10	岡山地方施設ぶどう研究会	16	シャインマスカット試験研究成果	果樹、病虫
11	果樹研究会(温室ぶどう女性部)	10	「紫苑」視察研修、栽培技術	果樹
12	果樹研究会(なし部会)	10	ナシ視察研修、栽培技術	果樹
13	JAびほくピオーネ生産部会成羽支部	10	シャインマスカット栽培技術	果樹
14	果樹研究会(もも部会)	30	視察研修	果樹、病虫
15	玉島北園芸協会ぶどう部会	20	ブドウ栽培技術	果樹
16	サンフルーツ・全農おかやま東京等	3	次世代フルーツ品種特性、栽培技術	果樹
17	JA岡山東赤坂温室ぶどう部会	22	シャインマスカット栽培技術	果樹
18	果樹研究会(ぶどう部会)	31	ブドウ視察研修、栽培技術	果樹、病虫
19	JAびほくピオーネ生産部会若手会員	12	次世代フルーツ(ブドウ)栽培技術	果樹
20	西中アレキ婦人部	10	シャインマスカット栽培技術	果樹
21	JAこばやし梨ぶどう生産部会	25	ブドウ視察研修	果樹
22	果樹高度化研修	20	モモ、ブドウ試験研究成果	果樹
23	一般社団法人日本果樹種苗協会	80	モモ、ブドウ視察研修	果樹
24	岡山大学	25	モモ、ブドウ視察研修	果樹
25	近畿中国四国果樹研究会	65	モモ、ブドウ視察研修	果樹、病虫
26	果樹研究会(温室ぶどう部会)	10	「シャインマスカット」視察研修、栽培技術	果樹
27	鳥取県農業大学校	5	モモ、ブドウ栽培技術	果樹
28	JAびほく北房ピオーネ生産部会	30	ピオーネ、次世代フルーツ栽培技術	果樹
29	JA阿新ぶどう部会豊永支部	60	ピオーネ、シャインマスカット栽培技術	果樹
30	長崎西彼農協大西海ぶどう部会	10	シャインマスカット整枝方法	果樹
31	JAびほくピオーネ生産部会	60	ピオーネ、次世代フルーツ栽培技術	果樹、環境
32	矢掛ぶどう部会	24	次世代フルーツ(ブドウ)栽培技術	果樹
33	果樹研究会(もも部会)	30	視察研修	果樹、病虫
34	JA岡山東ブドウ生産協議会	80	次世代フルーツ(ブドウ)の栽培技術	果樹
35	紀の川市環境保全型農業グループ	30	モモ新品種と高品質生産技術	果樹
36	金光葡萄研究会	22	次世代フルーツ(ブドウ)栽培技術	果樹
37	関西市場駐在協議会(日園連)	19	モモ、ブドウ新品種と栽培技術	果樹
38	久米青空市生産組合	30	ブドウ視察研修	果樹
39	新聞各社	9	モモ、ブドウ新品種育成	果樹
40	果樹研究会(ぶどう部会)	40	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹
41	山梨県果樹試験場	2	シャインマスカット試験研究、新品種	果樹
42	赤磐市立桜が岡中学校	3	モモ、ブドウ栽培体験研修	果樹
43	果樹研究会(温室ぶどう部会)	10	視察研修、栽培技術	果樹
44	果樹研究会(なし部会)	10	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹
45	笛吹農協一宮ブロック北ハウス研究会	7	ブドウハウス栽培、試験研究成果	果樹
46	温室園芸農協長野分区	8	「紫苑」の安定生産技術	果樹
47	果樹研究所研修生	5	モモ、ブドウ栽培技術	果樹
48	果樹研究会(なし部会)	10	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹、病虫
49	赤坂ぶどう組合	17	加温ブドウ省エネ技術	果樹
50	ジャパンヴィティカルチャークラブ	50	ブドウ視察研修	果樹
51	JA岡山西井原市ぶどう部会	7	「紫苑」の栽培技術	果樹
52	岡山西農協 農業塾	23	モモ、ブドウ視察研修	果樹
53	和歌山県桃研究協議会	10	モモの試験研究成果、モモ枯死対策	果樹
54	JAたじま豊岡葡萄部	8	ピオーネの栽培技術	果樹
55	勝英ぶどう部会	30	シャインマスカット栽培技術	果樹

56	JA岡山東赤坂ぶどう部会	20	シャインマスカットの花房管理	果樹
57	鳥取県日野地域トマト生産者	5	トマトの隔離床栽培	野菜・花
58	岡山県食品新技術応用研究会	21	野菜・花研究室の研究概要	野菜・花
59	JA岡山東西窪田いちご組合	6	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
60	岡山市イチゴ高設栽培グループ	10	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
61	青森県	1	モモの鮮度保持	環境
62	農研機構中央農業総合研究センター	2	土壌肥料研究課題	環境
63	中四国農政局	2	農薬残留分析	環境
64	岡山県立瀬戸南高等学校	6	果樹フェロモン剤の利用	病虫
65	備前市イチジク部会	10	イチジク株枯病の生態と防除	病虫
66	大分県豊肥振興局果樹普及指導員	2	ブドウクビアカスカシバ等の防除対策	病虫
67	福岡県病害虫防除所行橋支所	1	果樹カメモシ類の発生予察手法	病虫
68	中国地区兼商会技術販売部会	20	ブドウのクビアカスカシバの生態と防除	病虫
69	大阪くみあい農薬技術連絡協議会	14	ブドウ病害防除の基礎知識及び最新技術	病虫
70	岡山県植物防疫協会	12	岡山県病害虫防除所の概要	病虫
71	ダウケミカル社窓口	47	いもち病の発生予察と防除対応	病虫
72	大阪技術組合連絡協議会	17	ブドウの病害と防除対策	病虫
73	岡山県農業大学校 野菜コース	28	高冷地研究室の研究概要	高冷地
74	県北部地域の普及指導センター	10	トマトの日射制御試験内容	高冷地
75	岐阜県下呂農林事務所農業普及課	1	気象変動に対応した夏秋トマトの栽培技術	高冷地
76	広島県総合技術研究所農業技術センター	3	夏秋イチゴと夏秋トマト	高冷地
77	有限会社 RED	3	夏秋イチゴ育苗施設	高冷地
	合 計	1574		

平成25年度

No	視察団体	人数	視察内容	対応研究室
1	農林水産省経営局経営政策課	3	岡山県における水稲の乾田直播栽培	作物・経営
2	県穀物改良協会	20	水稲の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
3	勝英地域大型稲作研究会	40	温暖化に対応した水稲品種と栽培方法	作物・経営
4	JICA	15	水稲の採種技術、施設、圃場管理	作物・経営
5	全国肥料商連合会	20	水稲の湛水直播栽培	作物・経営
6	中国四国農政局生産部	4	岡山県における水稲の乾田直播栽培	作物・経営
7	静岡県経済産業部	4	岡山県における水稲の乾田直播栽培	作物・経営
8	個別生産者	3	あかおにもちの栽培、採種	作物・経営
9	東海農政局生産部	3	岡山県における水稲の乾田直播栽培	作物・経営
10	香川県	3	水稲「たちすずか」の試験状況	作物・経営
11	果樹研究会(ぶどう部会)	40	視察研修、栽培技術	果樹、病虫
12	果樹研究会(温室ぶどう女性部)	10	「紫苑」視察研修、栽培技術	果樹
13	岡山地方施設ぶどう研究会	16	シャインマスカット栽培技術	果樹、病虫
14	びほく農協ぶどう生産部会成羽支部	10	シャインマスカット栽培技術	果樹
15	有漢町認定農業者協議会視察研修会	13	ピオーネ、次世代フルーツの生産技術	果樹
16	玉島北園芸協会ぶどう部会	20	ブドウ栽培技術	果樹
17	JA岡山東山陽ブドウ部会シャイン研究班	40	シャインマスカット栽培技術	果樹
18	備前ぶどう部会	6	シャインマスカット房づくり技術	果樹
19	とびあ浜松農協ぶどう研究会	4	ピオーネ栽培技術	果樹
20	JA岡山御津ぶどう部会	30	簡易被覆ブドウ、ハウスブドウ栽培技術	果樹
21	果樹高度化研修	20	モモ、ブドウ試験研究成果	果樹
22	ぶどうくらぶ(広域後継者組織)	10	ピオーネ、次世代フルーツの栽培技術	果樹
23	岡山大学	34	モモ、ブドウ視察研修	果樹
24	びほく農協ぶどう生産部会有漢支部	40	シャインマスカット栽培技術	果樹
25	農事組合法人勸修寺樹園地組合ブドウ部会	20	ブドウ栽培技術	果樹
26	薩摩川内市技連	4	シャインマスカット、試験研究概要	果樹
27	中国四国農政局生産部園芸特産課	2	モモ、ブドウ視察研修	果樹
28	びほく農協有漢マスカット生産部	11	紫苑、シャインマスカット栽培技術	果樹
29	JAつやま久米南ぶどう部会	12	ピオーネ、シャインマスカット品質向上	果樹
30	伊賀北部農協ぶどう部会	18	シャインマスカット栽培技術	果樹
31	果樹研究会(温室ぶどう部会)	15	視察研修、栽培技術	果樹、病虫

32	高知市針木梨組合	28	モモ、ブドウ視察研修	果樹
33	JA須高ぶどう部会	40	シャインマスカット、短梢剪定栽培	果樹
34	JA須高ぶどうターミナルセンター	26	シャインマスカット、短梢剪定栽培	果樹
35	津高温室ぶどう経営者クラブ	17	紫苑、シャインマスカット栽培技術	果樹
36	須坂市農業委員会	23	ブドウ栽培技術、ブランド戦略	果樹
37	愛媛たいき農協ブドウ部会	25	ブドウ栽培技術	果樹
38	JA岡山東ブドウ生産協議会	100	次世代フルーツ(ブドウ)の栽培技術	果樹
39	JKB48モモ、ブドウ栽培体験	5	モモ、ブドウ収穫体験	果樹
40	くだもの王国岡山地域推進隊	77	シャインマスカット視察研修	果樹
41	果樹研究会(ぶどう部会)	40	視察研修、栽培技術	果樹、病虫
42	JA福岡八女ぶどう西部地区部会	30	シャインマスカット、新品種育成	果樹
43	普及指導員(大分県)	1	シャインマスカット試験研究	果樹
44	鴨方モモ生産者グループ	3	モモ栽培技術	果樹
45	JA岡山灘崎ぶどう部会	10	シャインマスカット品質向上	果樹
46	果樹研究会(なし部会)	20	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹
47	JAフルーツ山梨 営農販売部	2	紫苑、シャインマスカット栽培技術	果樹
48	中国四国ブロック果樹研究代表者協議会	30	ブドウ視察研修	果樹
49	JAフルーツ山梨 山梨ブロック露地ぶどう部会	14	シャインマスカット栽培技術	果樹
50	井原市新農業経営者クラブ礎会	10	「紫苑」栽培技術	果樹
51	あら川の桃生産者ピーチグループ	5	モモ栽培技術	果樹
52	果樹研究会(なし部会)	20	視察研修、品種持ち寄り検討	果樹
53	作東上山営農組合ぶどう生産者	15	ピオーネ、シャインマスカット栽培技術	果樹
54	矢掛モモ生産者	2	モモ栽培管理	果樹
55	あら川の桃振興協議会	30	モモ視察研修	果樹
56	JA岡山西井原市ぶどう部会	44	「紫苑」栽培技術	果樹
57	JA紀北かわかみ	8	「清水白桃」栽培技術	果樹
58	果樹研究会(もも部会)	40	視察研修、栽培技術	果樹
59	広島県果実農業協同組合連合会	89	ピオーネ、シャインマスカット栽培技術	果樹
60	まちぶらモニターツアー	20	モモ、ブドウ圃場見学	果樹
61	岐阜県中山間農業研究所	2	モモ台木に関する試験研究	果樹
62	JA岡山東赤坂ぶどう部会	20	シャインマスカット花穂管理技術	果樹
63	JA倉敷かさや	6	CO2利用、天敵温存植物	野菜・花、病虫
64	JA岡山市黄ニラ部会	10	黄ニラの生産安定技術	野菜・花
65	岡山大学農学部学生	34	果樹、野菜・花研究室の研究概要	果樹、野菜・花
66	倉敷地方いちご研究会	10	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
67	岡山・倉敷地域イチゴ生産者	20	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
68	真庭青果物生産者組合	40	ナス、トマトの研究概要	野菜・花
69	山口県上関町農業委員会	15	ナスの品質向上技術	野菜・花
70	JA倉敷かさや	8	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
71	農業電化協会中国支部	25	花きの電照施設等	野菜・花
72	JA土佐れいほく園芸部	30	天敵及び温存植物	野菜・花
73	JA倉敷かさや	8	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
74	JA岡山東西窪田いちご組合	6	イチゴの炭酸ガス施用	野菜・花
75	JA岡山備南茄子青年部	28	ナスの炭酸ガス施用	野菜・花
76	JA岡山東西窪田いちご組合	6	イチゴ新品種の特性と管理	野菜・花
77	JA全農	2	施肥試験に関する情報交換	環境
78	福岡県農林水産部経営技術支援課、普及指導	2	ナスの天敵活用防除の現状と問題点	病虫
79	JA京都やましる木津支店いちじく部会	12	いちじく株枯病対策等	病虫
80	島根県農業技術センター	5	いちじく株枯病防除対策	病虫
81	韓国国立園芸特作科学院なし研究所	1	根頭がんしゅ病	病虫
82	美作局管内農業普及指導センター	13	トマト、ダイコン、リーキ、ニンニク試験概要	高冷地
83	倉敷かさや農業協同組合	40	チャレンジ21視察研修	高冷地
84	岡山県農業大学校 花きコース	7	高冷地研究室の花き研究内容	高冷地
	合 計	1614		

新聞掲載記事

平成23年度

No	タ イ ト ル	掲載日	掲載新聞
1	病害虫図鑑「もも灰星病 袋掛け前に殺菌剤を」	4月21日	日本農業
2	営農技術情報「水稻の玄米品質低下対策」	6月11日	日本農業
3	営農技術情報「イチゴ炭疽病防除 太陽熱消毒の目安 6時間以上継続を」	6月25日	日本農業
4	カメムシ対策徹底を 岡山県病害虫防除所 農家に呼び掛け	7月17日	山陽
5	営農技術情報「長期部分マルチによるモモ清水白桃の生理的落果軽減」	7月23日	日本農業
6	斑点米カメムシ類 3年ぶり多発注意報	7月29日	岡山日日
7	斑点米カメムシ類 岡山県全域に注意報	7月29日	日本農業
8	カメムシ注意報 3年ぶり発令 県、対策呼び掛け	7月29日	山陽新聞
9	県内に病害虫発生予察注意報	7月29日	毎日新聞
10	青大豆「津山」使った豆腐試食 農協など「口当たり滑らか」	8月10日	山陽
11	盆と秋の彼岸の最需要期カバー リンドウ2品種育成 岡山農業研	8月21日	山陽
12	おかやま夢白桃 本格出荷5年目 産地に浸透 栽培拡大 核割れ少なく高品質	8月21日	山陽
13	営農技術情報「リンドウ短茎開花の発生について」	9月10日	日本農業
14	花トウガラシ 出荷が最盛期 高粱	9月11日	山陽
15	黒大豆枝豆を電照栽培 成長抑制し出荷期間延長 11月上旬の端境期カバー	9月18日	山陽
16	うちのモノ語り 岡山県産モモの原点 上海水密 県農業研究所	11月8日	山陽
17	生産拡大へ連携組織 岡山で大会 県りんどうの会設立	11月23日	山陽
18	特産小豆「夢大納言」使い 菓子11点を開発 備中高梁ブランド協	11月27日	山陽
19	夢大納言使い菓子10点展示 高粱で試食会	12月6日	山陽
20	Uターン就農難波さん夫妻 赤米でパンや菓子 6種類開発	12月9日	山陽
21	営農技術情報「飼料稲栽培における施肥コストの低減」	12月10日	日本農業
22	赤米で6次産業化挑戦 Uターン就農の総社・難波さん夫妻 ケーキなど菓子を試作	12月31日	山陽
23	営農技術情報「麦類の子実たんばく質含有率 排水と穂肥で向上」	1月28日	日本農業
24	営農技術情報「白ネギ栽培における肥効調節型肥料の使用方法」	2月11日	日本農業
25	「さきがけはくとう」 わせ桃新品種 岡山県農業研が育成	3月15日	山陽

平成24年度

No	タ イ ト ル	掲載日	掲載新聞
1	ピープル「新しい品種開発に全力 県農林水産総合センター長になった林弘明さん」	4月19日	山陽東備版
2	水田利用モデル作成 集落営農の設立後押し	5月29日	日本農業
3	営農技術情報「丹波黒セルトレイ育苗の注意点 播種直後のかん水タイミングが重要」	6月9日	日本農業
4	営農技術情報「黒大豆エダマメの茶しみ症対策」	6月23日	日本農業
5	リンドウ産地目指せ 井原花卉部会 昨年作付け 今夏初出荷	7月13日	山陽新聞
6	営農技術情報「おかやま夢りんどう シリーズさらに充実 西日本一産地に期待」	7月14日	日本農業
7	試験研究の成果発表 県農林水産総合センター 130人参加 セミナー	7月26日	山陽
8	キク茎えそ病確認 岡山で特殊報	8月3日	日本農業
9	おいしさ追求 輸出増目指す	8月10日	フジサンケイ
10	営農技術情報「最近のイチゴ品種について」	8月11日	日本農業
11	営農技術情報「施設野菜圃場の発芽障害対策」	8月25日	日本農業
12	小麦「ふくほのか」奨励品種に 岡山県が方針 55年ぶり主力転換	8月26日	山陽
13	マスカット加温栽培新手法 変温管理 燃料4割減 農家へ周知本格化	9月16日	山陽
14	ナスコナカイガラムシ キキョウトリバ 岡山県が特殊報	10月24日	日本農業
15	営農技術情報「秋まきダイコンの糖度と収穫前低温遭遇の関係」	10月27日	日本農業
16	WCS用稲現地検討会 「たちすずか」に期待	11月10日	日本農業
17	超促成イチゴ出荷 1ヶ月前倒し高値取引	11月11日	山陽
18	ブルーレースフラワー 「岡山1号」新品種開発	12月2日	山陽
19	高糖度モモへ土づくり シンポで岡山県 腐植の指標示す	12月4日	日本農業
20	営農技術情報「変温管理によるマスカット加温栽培の省エネ対策」	12月8日	日本農業
21	桃の果実赤点病 イチジクモザイク病 岡山で特殊報	1月12日	日本農業
22	田植え後の水稻黄変の原因 土壌の硫黄不足に 岡山	1月29日	日本農業

平成25年度

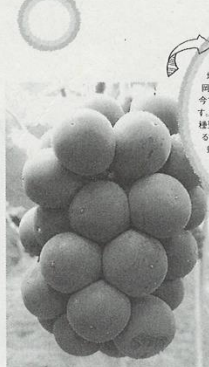
No	タ イ ト ル	掲載日	掲載新聞
1	麦類赤かび病 適期防除を 岡山県	4月18日	日本農業
2	シャインマスカット栽培で岡山農業研が新技術 若木の欠点補う 開花前つぼみに調整	4月28日	山陽
3	天敵昆虫で害虫防除 岡山市農協備南施設茄子部会 防除作業を省力化 農薬も減 ブランド力アップ	6月2日	山陽
4	営農技術情報「病害虫の遺伝子診断 特異的な部分を増幅 電気泳動写真で判定」	7月13日	日本農業
5	県内全域にカメムシ注意報	7月20日	山陽
6	斑点米カメムシ警戒 岡山県注意報	7月20日	日本農業
7	営農技術情報「トマトの立枯性細菌病の抑制対策 速やかに抜き取る」	7月27日	日本農業
8	主食用米のヒノヒカリ、アケボノ 粗飼料向けに改良 施肥量と時期工夫	8月4日	山陽
9	オーロラブラック 盆前出荷取り組む 津山農協ブドウ部会北部支部	8月4日	山陽
10	岡山は栽培面積全国一 清水白桃 袋掛けて上品な「白」に、食感もまろやか	8月4日	山陽さん太タイムズ
11	需要期狙い露地小菊を電照 夏秋安定出荷めど 5品種3作型 開花調節	8月7日	日本農業
12	待望の桃早生種 「さきがけはくとう」育成 独自種でリレー可能に	8月14日	日本農業
13	営農技術情報「桃の安定生産に向けた収穫後の技術対策 かん水で肥料を吸収」	8月24日	日本農業
14	岡山ブランド農産物を支える新品種開発 岡山県農林水産総合センター農業研究所	8月25日	山陽
15	稲発酵粗飼料 主食用稲も適合 県南部の導入可能	8月25日	日本農業
16	黄ニラ“日光浴”で鮮やか 夏の発色不良を改善 「ブランド力向上」期待	8月27日	読売
17	黄ニラ変色防げます 県農業研究所が発見 2時間の日光と冷却、カギ	9月2日	朝日
18	HPで12年度研究成果発表 岡山県農業研究所	9月8日	山陽
19	営農技術情報「温水によるブドウ白紋羽病の治療 省力的 環境に優しい」	9月14日	日本農業
20	黄ニラ発色不良防止 岡山県農業研手法考案 日光当て冷蔵保存	9月22日	山陽
21	景観植物・スカエボラ 複数天敵を温存 冬場も定着・増殖	10月2日	日本農業
22	営農技術情報「早熟・多収・高品質の小麦 「ふくほのか」を奨励」	10月12日	日本農業
23	水稻カリウム減肥法開発 飽和度4%目標に 岡山県	10月31日	日本農業
24	営農技術情報「ネギの新品目 リーキ 高まる国産志向」	11月9日	日本農業
25	ハウスのCO ₂ 濃度高め光合成促進 冬春ナス収量アップ 来年度にも本格普及着手	11月10日	山陽
26	ナス防除 天敵移動促す バンカー植物スカエボラつり下げ	11月13日	日本農業
27	ブドウ「ピオーネ」トンネル栽培 高温原因の着色不良を軽減 7月中旬被覆除去	11月15日	日本農業
28	白紋羽病の温水天敵治療 ブドウにも有効 岡山県農研	11月21日	日本農業
29	バーベナが天敵増殖 タバコカスミカメ放飼 ハウス内で試験	12月3日	日本農業
30	イチジク株枯病で岡山農研 体系防除普及へ オンリーワンフロアブルかん注処理が効果	12月10日	日本農業
31	冬ブドウ 紫苑の出荷期間延長 岡山県農業研究所が手法確立 歳暮、Xマス需要期カバー	12月15日	山陽
32	冬春ナス生産拡大を 元気ベジタブル推進本部 岡山で初の振興大会	12月20日	山陽
33	桃開花期前後の霜害対策 市販燃料資材が効果	12月24日	日本農業
34	ブドウ2品種 早期保温+変温管理 省エネ複合技術開発 節油率45% 品質・収量変わらず	12月27日	日本農業
35	ブドウ「紫苑」年末出荷可能に 11月以降夜温10度超に	12月29日	日本農業
36	無加温 ブドウ「シャインマスカット」 着果量と糖度に相関 10アール2.4トン以内が適正	1月7日	日本農業
37	ミナミアオカメムシで特殊報 岡山	1月7日	日本農業
38	ブルーレースフラワーで独自品種 「岡山BLF1号」を育成 防除、収穫しやすく	2月16日	日本農業
39	営農技術情報「鶏ふんを使った水稻の有機育苗 窒素含量3%以上で」	2月22日	日本農業
40	露地桃 凍害防止にまき加温 岡山農業研 技術普及図る	3月30日	山陽

■は、試験研究主要成果を中心に「営農技術情報」として農研が執筆

岡山ブランド農産物を支える 新品種開発

「晴れの国」岡山県は、温暖な気候と豊かな土壌に恵まれた土地で、高品質な農産物の栽培が盛んです。岡山県農林水産総合センター農業研究所では「岡山ブランド」確立に向けて新品種の開発に取り組んでおり、これまでに白桃やブドウ、スイートピーなどの幅広い品目で新品種を世に送り出してきました。

岡山県の代表的なブランド農産物と、それを支える新品種開発を紹介します。



岡山産ブドウの大きさが、うっすらと、きれいに整った形は、晴れ国岡山ならではの栽培技術によるもの。「ピオーネ」は昭和50年代、岡山県が最も栽培面積を伸ばし、急激に普及し、今では岡山県は栽培面積、生産量ともに日本一です。さらに岡山産のブドウは、2003年に品種登録された「オーロラブラック」は、鮮やかな赤色の果皮と、果肉が柔らかく、口当たりがよいのが特徴です。

岡山産ブドウの大きさが、うっすらと、きれいに整った形は、晴れ国岡山ならではの栽培技術によるもの。「ピオーネ」は昭和50年代、岡山県が最も栽培面積を伸ばし、急激に普及し、今では岡山県は栽培面積、生産量ともに日本一です。さらに岡山産のブドウは、2003年に品種登録された「オーロラブラック」は、鮮やかな赤色の果皮と、果肉が柔らかく、口当たりがよいのが特徴です。



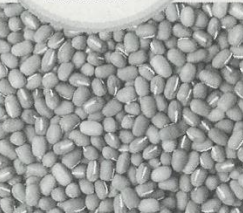
岡山産の夏の味覚と云えば、甘くてジューシーな白桃。デリケートな白桃は、果実一つ一つに愛情を注いで育てることで生まれます。岡山産の白桃栽培は、明治時代から始まり、昭和30年代に岡山県で栽培面積が急増しました。岡山県は、白桃の栽培面積、生産量ともに日本一です。岡山産の白桃は、果肉が柔らかく、口当たりがよいのが特徴です。

岡山産の夏の味覚と云えば、甘くてジューシーな白桃。デリケートな白桃は、果実一つ一つに愛情を注いで育てることで生まれます。岡山産の白桃栽培は、明治時代から始まり、昭和30年代に岡山県で栽培面積が急増しました。岡山県は、白桃の栽培面積、生産量ともに日本一です。岡山産の白桃は、果肉が柔らかく、口当たりがよいのが特徴です。



岡山産ブランド米の「朝日」。現在流通している米の中では最も古い品種です。大正時代からずっと守り育てられ、「コシヒカリ」や「夢大納言」などの新しい品種と競い合っています。朝日は、米粒が太く、炊きあがり、口当たりがよいのが特徴です。朝日は、岡山県で栽培面積が最も多い品種です。朝日は、岡山県で栽培面積が最も多い品種です。

岡山県は中四国一の大豆の産地。近年の品種「新中納言」を開発し、2006年に品種登録されました。「新中納言」は、従来の大豆と比べて、収穫量が約2割増、タンパク質が約1割増、油分が約1割増、食味がよいのが特徴です。新中納言は、岡山県で栽培面積が最も多い品種です。新中納言は、岡山県で栽培面積が最も多い品種です。



岡山県は中四国一の大豆の産地。近年の品種「新中納言」を開発し、2006年に品種登録されました。「新中納言」は、従来の大豆と比べて、収穫量が約2割増、タンパク質が約1割増、油分が約1割増、食味がよいのが特徴です。新中納言は、岡山県で栽培面積が最も多い品種です。新中納言は、岡山県で栽培面積が最も多い品種です。

南のスイートピー
北のスイートピー

日開を好むスイートピーは「晴れの国岡山」を代表する花で、栽培面積が最も広がっています。岡山県は、スイートピーの栽培面積、生産量ともに日本一です。岡山産のスイートピーは、花がきれいで、口当たりがよいのが特徴です。岡山産のスイートピーは、花がきれいで、口当たりがよいのが特徴です。



新品種・新技術開発でブランド化を目指す 岡山県農林水産総合センター農業研究所



岡山県農林水産総合センター農業研究所は、新品種・新技術の開発を通じて、岡山県産農産物のブランド化を目指す。岡山県は、農産物の生産量が全国トップクラスであり、岡山県産農産物のブランド化は、岡山県産農産物の競争力を高めるために不可欠です。岡山県農林水産総合センター農業研究所は、新品種・新技術の開発を通じて、岡山県産農産物のブランド化を目指す。

●問い合わせ先／岡山県農林水産総合センター農業研究所 ☎086-955-0271

企画・制作／山陽新聞社広告本部

平成25年8月25日 山陽新聞広告ページ

赤松市の農林水産総合センター

「晴れの国おかやま」では、朝日米や桃、ブドウをはじめとしてさまざまな農産物の栽培が盛んに行われています。この県の農業を技術開発で支えているのが岡山県農林水産総合センター農業研究所です。

営農技術情報

農業研究所編

「晴れの国おかやま」では、朝日米や桃、ブドウをはじめとしてさまざまな農産物の栽培が盛んに行われています。この県の農業を技術開発で支えているのが岡山県農林水産総合センター農業研究所です。

岡山ブランド確立へ 昨年度の36成果公表

昨年度の36成果公表。岡山県農林水産総合センター農業研究所では、昨年度の研究開発成果を発表しました。発表された36の研究開発成果は、岡山県産農産物のブランド化に貢献するものが多いです。岡山県農林水産総合センター農業研究所では、昨年度の研究開発成果を発表しました。

昨年度の36成果公表。岡山県農林水産総合センター農業研究所では、昨年度の研究開発成果を発表しました。発表された36の研究開発成果は、岡山県産農産物のブランド化に貢献するものが多いです。岡山県農林水産総合センター農業研究所では、昨年度の研究開発成果を発表しました。

平成26年6月14日 日本農業新聞 営農技術欄

ハウスのCO₂濃度高め光合成促進

冬春ナス収量アップ

岡山県農林水産総合センター農業研究所（赤磐市神田沖）は、冬春ナスのハウス栽培で収穫量を高める新手法を確立した。プロパンガスを燃料にした二酸化炭素（CO₂）発生装

置で光合成に必要なCO₂濃度を高めて成長を促す。2014年度にも農家への本格普及に着手し、県産野菜で出荷額トップのナスの生産振興につなげる。（金原正朗）

岡山県農業研究所が新手法確立



二酸化炭素濃度を高める新手法で育てたナス
＝岡山県農林水産総合センター農業研究所

冬春ナスは9月から翌ウス内に置き、午前6時年6月にかけて出荷。通午後3時に稼働させる。常のハウス栽培は10月下旬から4月まで、ハウス内の温度が13度前後になるように夜間に重油ボイラーで加温する。

新手法は夜間の重油ボイラー運転に加え、11月にCO₂発生装置をハ

冬春ナスはシーズン中に3～5回ほど実をつける。同研究所の試験では、

冬春ナスは9月から翌ウス内に置き、午前6時年6月にかけて出荷。通午後3時に稼働させる。常のハウス栽培は10月下旬から4月まで、ハウス内の温度が13度前後になるように夜間に重油ボイラーで加温する。

新手法は夜間の重油ボイラー運転に加え、11月にCO₂発生装置をハ

冬春ナスはシーズン中に3～5回ほど実をつける。同研究所の試験では、

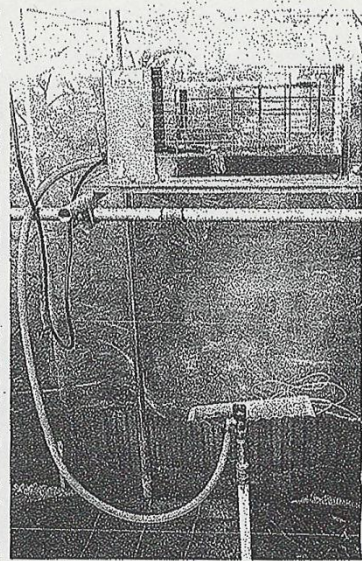
来年度にも本格普及着手

同装置の導入費は10万円、ガス代は年間約75万円、ナスは冬場に品薄傾向で市場価格が通常より5割程度高いこともあり、同研究所は、経費増は収量アップでカバーできるとみている。

CO₂濃度を高める栽培方法（5品目）の一つにナスを法は関東地方のイチゴ栽培位置づけている。

開花から収穫までの期間を約30日から約25日に短縮でき、1株当たりの収量は平均で8・8kgと通常の1・5倍に増えた。重油ボイラーのみでは熱量が大きすぎる上、換気が適宜必要ためCO₂濃度を保つのは難しいという。

全農本部によると、県産ナスは12年度、38トン、55戸が栽培し出荷額は約16億円。米の転作用として児島湾干拓地などで広がる、冬春が約8割を占める。県も「県野菜振興計画」で生産振興やブランド化を進める戦略推進品目（5品目）の一つにナスを位置づけている。



二酸化炭素の発生装置

平成25年11月10日 山陽新聞